

旅人（バックパッカー）が書き、旅人が読む、旅人のための旅ライフフリーペーパーマガジン

Bravi

Vol. 6

Photo(C)WorldHacks!

テーマ「Gift（与えたもの、いただいたもの）」／旅先の変な日本語
Bravi Biz「旅」×「ビジネス」
旅で使えるスマホアプリ／私がフィリピン英語留学をする理由
Chibirockの旅はくせもの
HANGOVER in the WORLD／世界のマイノリティ流儀
旅人からの伝言「特集 スタン」
トホホな話／一本の糸で世界をつなぐチャリの旅／自炊派の手料理
エッセイたびたべ／アジア漂流日記



Khaosan Tokyo Guest House

<http://www.khaosan-tokyo.com/ja/>

日本で海外の気分を楽しめる！

カオサン東京ゲストハウスは、東京、京都、福岡、別府に計8つの店舗を展開しています。

国際交流をしたい！安く快適に泊まりたい！楽しくにぎやかに滞在したい方！

観光、就職活動、一人旅等、あらゆるお客様に満足していただける宿泊施設です。



TOKYO

NINJA

1泊/2200円～

ORIGINAL

1泊/2000円～

SAMURAI

1泊/2500円～

ANNEX & SMILE

1泊/2000円～

KABUKI

1泊/3000円～

KYOTO

1泊/2000円～

BEPPU

1泊/2000円～

FUKUOKA

1泊/2400円～



テーマ「Gift（与えたもの、いただいたもの）」■

チャーハン□

断れない仕掛け□

魔女なんていないわ□

旅先の変な日本語■

幸福論（後編）■

私がフィリピン英語留学をする理由■

Brali Biz 「旅」×「ビジネス」■

旅で使えるスマホアプリ■

Chibirockの旅はくせもの■

HANGOVER in the WORLD■

「キューバの酒」□

旅人からの伝言 「特集 スタン」■

ウズベキスタンとカラカルパクスタン□

パキスタンのおっちゃん□

トホホな話■

第3回 海外起業家勉強会セミナー潜入レポート■

一本の糸で世界をつなぐチャリの旅■

自炊派の手料理■

「お手軽ローストビーフ」□

エッセイたびたべ■

世界マイノリティ流儀■

アジア漂流日記■

作者・情報提供者一覧■

編集後記■

次号予告■

記事募集■

A young boy with dark hair and a slight smile is in the foreground, looking towards the camera. Behind him, a woman with dark hair is also smiling. They are surrounded by several large, brightly colored gift-wrapped packages in shades of green, red, and blue. The scene appears to be outdoors, possibly at a market or a festival.

旅先で頂いたモノ、コト

Gift

- チャーハン
- 断れない仕掛け
- 魔術の中で生きる ～グアテマラの世界観～

Gift (与えたもの、いただいたもの)

チャーハン



■Writer&Photographer

Taiki.

■Age

20代

■Profile

<http://worldxjourney.wordpress.com/>

世の中ギブアンドテイクだと思ってる。

1年前、南アジアを旅しようとインドに飛び降りた。有名な世界遺産、タージマハルを拝む為にアーグラを目指した。これは、見ず知らずのインド人のおっさんが僕にくれたチャーハンにまつわる話です。

アーグラの街は小さく、徒歩だけでも時間を潰せる。インドはデリーから着いたばかりだったが雰囲気にも徐々に慣れてきてた。とはいうけど本当に色んな人がいる。しつこい人、子供みたいな人、真面目な人もいれば強情な

人、世の中の全てのタイプの人間が集約されてるような国だった。とにかくこの国に行くにはパワーが要る。安いのはいいが、メシも合わず腹も壊す。自分にとってインドを旅する事は、全裸で闘牛場に突っ込むのと同じだって思ってた。

アーグラに着いて早速散策。一大観光地ってだけあって客引きも多く、しつこいけど良い事もある。長い事旅すると孤独に陥る事って多いけど、四六時中誰かが話しかけてくるので一人で外出してる限り、それは感じない。旅してるのに一人旅してる気にさせない

国、それがインド。何事も表裏一体だと思った。

アーグラでは沢山の人と出会ったけど、その中でも特に思い出に残ってるのが、とある定食屋の店主。宿の目の前にある日本食屋に昼メシを食いに入ってみた所から始まる。メニューには汚い字でOYAGODONやらsukiakiやら非常に怪しい。他にも辛ラーメンやピザもあって何かと忙しい。どうやらオーナー夫婦2人と子供が2人っていう家族構成のようで、日本料理を売りにしてるのに日本語を一言も知らないという粹な計らいを披露してくれた。

まずはそのOYAGODONとやらを注文して食べてみたけど、何とも斬新かつ味の無い味がする。店主は衛生環境に気を遣ってるらしく、料理にはミネラルウォーターを使ってるし手洗いは欠かさないんだと自慢された。不味いなんて言う訳にもいかず黙々と平らげた結果、店主からの質問攻めに遭ってしまった。味はどうだから始まり、どこに泊まってるか、仕事は何だ、日本はどっから来たか。などなど当たり障りない会話を繰り返す。良い年のくせに日本の女は最高だとか言ってるから、お前絶対知らないだろうって一蹴してやった時の彼のドヤ顔は忘れられない。



その後も宿の前でちょくちょく顔を合わすうちに、気づいたら打ち解けてた。自分は体調を悪くしてた事もあって、少し長居しようと思った時だった。店主は顔を合わす度、今日も暇だと言ってきた。来る日も来る日も客が入ってこないし自分も客が入ってる時を見た事もなかった。本人はそうは言わなかったけど多分、客が0の日も多そうだった。そんな日の彼はとても悲しそうな顔をしてた。

そんな中、いつもの様に店先で暇話に華を咲かしてると店主が「客連れてきたらタダで飯食わしてやる」

と言い出す。その店は他店より高いから食べないようにしてたが、タダになるならって事で手を打った。店先で呼び込みしたり知り合った人何人かに声をかけたりもしたが、結局誰も来ず。店主の悲しそうな顔を見てるとほっとけず、アーグラ最後の日の夜メシはそこで食べた。

僕が注文したのはその店で一番高いラーメンとチャーハン、それとコーヒー。自分が普段食べる食事の4倍以上の値段だった事を覚えている。店主への気持ちも込めて金落としていこうと決めてた。

席に座るなり店主が、チキンが好きか？卵は？ローストビーフは？としきりに聞いてくる。結局お前もその辺のインド人と一緒に高額請求してくるのかと内心思った。全てYESで答えた。チャーハンには少し自信があるらしく特に力も入れてくれたみたいで「これは俺のオリジナルメニューだ」

とか言って、めっちゃ豪勢だった。ご飯時、遠くに見えるタージマハルのシルエットを横目に、屋上のテラスから道を眺めながらも客はやっぱり来ない。結局その日の客は自分1人だった。ま、別に俺のせいじゃねーしなとか思って会計しようと声をかけた。そしたら店主は無視してきて機嫌も悪そうだった。動くのめんどくせーのかな(インドではよくある)と思って席を立ち、いくらか聞いたらムスツとした顔で一言。「金は要らねえ」との事。家族もいるのに客もほとんど来ない店に来て一番高いメニューにローストビーフのオプションをつけた金持ちジャパニーズに対して『金は要らない』らしい。店主はしきりに、Money is not importantと繰り返す。そんな気も毛頭なかったし流石に金は払うと言うと「俺の気持ちだ、金は問題じゃない」と。「カネ位払わせてよ、オッサン」って心の中で呟いたら、今までどっかで疑ってたインド人に対して、少し心を開けた気がした。客入ってないくせに、そんな事言える店主が眩しかった。節約して1日でも長く旅するとか下らない事を求めてケチケチしてた自分が物凄く小さく思えて、食べた分を押し付けて払った。明日また来るって言い残して宿に戻ったけど、思う事

が沢山あった。金は本当にいらなかったみたいけど受け取っても尚、ムスツとしてる店主の目には涙が流れていた。タダメシが食べたくて客探しを手伝っただけなのに嬉しかったのか分からないけど。そこで初めて、どこの国の人間も根本は同じなんだって思った。

そんでもって翌朝、朝メシを食いに行ってもやっぱりツンデレだったけど、

「今日はサンドイッチに卵2つ入れてやったぞ！」

と、粋がってくれたんで、少しでも客が増えることを願って、日本語の看板を作って置いてきた。『当店では調理の際の手洗い、ウガイを徹底しております』ってゆう店主の受け売り。まだあるかは知らないし確かめようとも思わないけど、あの日の国籍を越えた僕らの友情が本物だったって事だけは間違いない。忘れられないチャーハンを食べたってゆう、そんな話。

インドの世界遺産、タージマハルに立ち寄る際は是非食べてみてください！ 看板が目印。味はマズイです！





■Writer&Photographer

ZedTeppelin

■Age

33

■Profile

<http://twitter.com/ZedTeppelin>
zedteppe.exblog.jp

世界中観て回ったわけでもない自分が言うのもなんだが、マラッカのチャイナタウンは異質だ。

ポルトガル、オランダ、イギリス統治時代の面影を残しつつ、モスク、ヒンドゥー、仏教寺院が至る所に点在する「るつぽ」。世界遺産、マレーシアにあるマラッカの街。

そんな中にあるチャイナタウンは、落ち着き洗練された雰囲気がある。他のそれとは何か異なる。時の流れを感じさせる中華風の建物は美しく古い、今風のカフェやバー、お洒落な洋服屋やアートギャラリーがギャップを感じさせながら自然と同居する。日本でいう古民家使いのレトロフューチャーや西洋風

に化けた建物、剥げかけたパステルカラーにコマーシャル代わりの落書きタッチが馴染む。

休日、日中の暑さが和らいだ夕暮れ時から、中国各地の甘味屋台を筆頭に飲食店がメインストリート“Jonker Street”を埋め尽くす。店に立つ中華、マレー、インド系の人々に世界各地からの観光客。「ネオアジア」そんな言葉がぴったりとはまる。その通りを抜けるとカラオケ大会の特設会場が現れる。集う地元住民、老人や子供達。はにか夏夕涼み、マッタリとした雰囲気。皆の心を和ませる。日本演歌の名曲を中国語で歌い上げる地元カラオケ名人。ならばと、自分は近くのフェニックス寿司なる路上屋台で危険度100%のMaki, Sashimi, Sushiを頂く。昭和の先にあったかもしれない来なかった未来に酔いしれる。

そんなチャイナタウンで足しげく通ったのが点在するアンティークショップだ。店頭から店の奥の奥までを埋め



尽くす品数にはまず圧巻、時を忘れて魅入ってしまう。仏像やら謎の石、木彫りの何かにアンティーク時計……バニョニャという中国とマレー混血文化から派生したのかどうかは定かではないが、パステルカラーの陶器は特に目を引く。中には「ん〜!?」と思う様な、ド●えもんグッズや針金細工のプレ●ターなども混在だが、それはそれでチャイナタウンの奥深さすら感じる。

それは店頭のショーケースの中、神様だらけの陳列左端で怪しげな光を放っていた。最初は骨董品屋という独特の空気から怖くて値段を聞く事が出来なかった。取りあえず店内をゆっくりと一周する。その間に数点、商品の値段を聞いてみる。貧乏旅行をしている自分にはやはり高い。

だがどうしても気になるファーストインスピレーション、あいつが忘れられない。店を出たところで思い切って店先の恰幅の良いおばさんスタッフに指差し切り出す。

「そのタイガーのヤツを見せて欲しい」

「お〜、このライオンか!?」

と笑顔で一括……言われてみれば確かにだ!!



手に取ってみると古そうでそうでもなさそうで……高そうでそうでもなさそうで……開閉可能なペンダントトップ!? 使い方はどうあれ間違いなく好みの絵柄だ。すかさず本題に入る。

「で、これはいくらですか？」

恰幅の良いおばさんスタッフに一瞬の間、空気感が一気に勝負事の様な。

「200リンギット (約5200円) だったかな〜」

定かではないらしいがそう答える。するとそんな会話を知ってか知らずか、店内で対応してくれたオーナーらしきおばあちゃんが出てきてこう言う。

「30リンギットでどうだ？」

あれ!?と半笑いの自分に、

「25、いやキミは今日のラストカスタマーだ。20リンギットでどうだ？」

と、まだ値切ってもいないのに価格は10分の1にまで暴落する。スピーディーな驚愕ディスカウントには、もう買わないとは言えない……。

思い出、商品価値共にプライスレス。値段を聞いてからほんの十数秒の出来事だった。『この仕掛けは使える』これからの人生に取り入れていこうと思う商売の切り口だ。

Gift (与えたもの、いただいたもの)

魔術の中で生きる ～グアテマラの世界観～



■Writer&Photographer

白石拓哉

■Age

30歳

■Profile

あちこち巡るのも好きでしたが、ホームステイなどの長期滞在が旅のかたちになりました。

今まで感じてきたことを少しずつでも文章にしていけたらと思っています。

E-mail: gentilsoleil0821@yahoo.co.jp

グアテマラでホームステイをしていた時のこと。ぼくはおばあちゃんとドラマを見ていた。悪党が札束をちらつかせ、魔女に呪いのお願いをしてるところだった。

「おばあちゃん、魔女って本当にいるの？」

「そんなのはいないわ。ファンタジーよ」

おばあちゃんは隠してる！ そう思

ったぼくは先生に確認することにした。

「先生、ドラマに魔女が出てきたんだけど」

「何言ってるの？ そんなのファンタジーよ」

ファンタジーとはこの世とは別の世界のことだ。しっくり来なかったぼくは、ドラマに出てきた海賊の絵を描いて突き出した。黒い眼帯、片手は義手



で金具のフック。こんなフック船長こそピーターパンの世界、ファンタジーだ。

ぼくがラテンアメリカへ飛んだのは、どうしても確かめたいことがあったからだ。それはファンタジーと呼ばれることを、この大陸の人々がしばしば現実だと反論していることだった。ぼくらには見えないものを掴んでいるのではないか、そう思った時にはこの土地に根付いてみたくなっていた。異国の客としての限界を知りつつも、出来る限りのことをしてみたかった。

グアテマラには中米で初めてノーベル文学賞を取ったアストゥリアスという作家がいる。その名前を一度出せば、みんなが目を輝かせる程の存在だ。魔術について吐かせたかったぼくは彼のことを利用した。彼のことを理解するためにも先生の世界を教えて欲しいと。

まずは心を開いてもらうためにこちらから秘密を明かした。呪いのわら人形にコックリさん。話を聞いた先生は思惑通りに深入りしてきた。同じことをしてるのね、と幼い頃の思い出も語ってくれた。ところがいざ魔術について質そうとすれば肝心なところで口は閉ざされた。こんなせめぎ合いが幾度も繰り返された。

こうして1ヶ月が過ぎようとしていた頃。ついに秘密は解き明かされた。先生は周りに気をくばりながら、そっと顔を近づけてきた。

「ある日、裏庭の木に呪いの札が立てかけてあったの。両親はイタズラだと呆れてたわ。でも触るのはいやで放置しておいたのよ」

どこにでもある話だ、ぼくは静かに笑いかけた。しかし先生は緊張を崩さなかった。

「それから1週間後、家族で鍋を温めていたときのことよ。カマドの中にいつのまにか黒猫がくるまっていたの。炎の中によ！ だからおじいさんは必死になって炎を消して、急いでその黒猫のしっぽをつかんだわ。でも炎の中にいたのに、しっぽが氷のように冷たかったの。おじいさんの掴んだ手は震えてたわ。ところが突然、黒猫はぱちりと目を開けると勢いよく外へと走っていったの。そのとき全員で思った。あれはやっぱり呪いだったんだって」

この日を境にして、ぼくは魔術の話々を次々と教えてもらうことになる。呪いの札なんて心の底では信じてなかったのに、それは遂に日常に入り込んできた。あまりの急展開に感情がついていかず、真剣に聞くべきなのかどうか分からないこともあった。それでも先生は辛抱強く自分の世界を伝えようとしてくれた。

ある日、先生と初めて学校の屋上に上った。そこからは広大な庭のある立派な家が見えた。もう2ヶ月も通っているのに、裏口側にあったためか全く気がつかなかった。

「あれは魔女の家だったのよ」

「本当に！」



ぼくは思わず先生の方を向いた。
「なんで誰も教えてくれなかったんだ
ろう」

「ここでは魔女が当たり前すぎること
だから。それに今は誰もいないからか
しら」

改めて見下ろした街からは静けさだ
けが伝わってきた。まるで地上の空気
が抜き取られたかのようなだった。呼吸
の音さえ聞こえなかった。意識のざわ
めきまでもが止まっていった。

ふいに先生が不安な顔を見せてき
た。

「聞こえない？」

「えっ、何が？」

「家から女の笑い声が聞こえてるでし
よ」

「えっ、どこから？」

ぼくには何も聞こえなかった。音は
響いていない。その声は感じられるだ
けで、音ではないのだろうか。ちょう
ど夢で聞く言葉のように、感じられる

だけなのだろうか。

声は止んだようだ。先生はぼくを諭
すようにして口を開いた。

「わたしたちの世界は分かれてしまっ
たの。証明できるものが全てであっ
て、もう魔術や呪いや神話なんて信じ
られないの。でもこうして感じるこ
とがあるから否定もできないの。この世
には説明できないことの方が多いの
よ」

それでもぼくは突き止めたかった。
いっしょに授業を抜け出して、あの家
へ行こうと誘った。

「しょうがないわね」

先生は呆れ顔で応えた。

入口は鉄格子で閉ざされ、立入禁止
の札が付けられていた。庭の塀にも有
刺鉄線が何重にも巻かれていた。ひっ
そりとしたこの家を、執拗にまで消し
たがるのは、きっと彼らの頭の中が、
色んな物音や声でいっぱいだからだ。

日本語



旅先の

海外の旅先で見かける、どう見ても変な日本語。看板やメニュー、商品やチラシに至るまで。笑わせてくれる「変な日本語」をTwitterで集めて見ました。



「けものの肉」が何なのか気になるところだが、その上の「手打のしゃぶ」はヤバいだろう。この場合の「手打」は方法を意味するのか、それとも仲直りを意味するのか？ま、どちらでもイイのだが・・・。

http://twitter.com/yoksal_mumrikh

変



「恋愛のはさみ心ケーキ」なんとなく伝わってくるんですが。
となりのコアラのマーチっぽいのも気になります。
フィリピン セブ島 大村豪

変



「兩替致しまよ」おしいっ！でも、なんか可愛いですね。
マレーシア、ペナン島の対岸にあるバタワースの鉄道駅
<http://twitter.com/ZedTeppelin>



幸福論(後編)

■Writer&Photographer

鈴木モト

■Age

30歳代前半

■Profile

男性 静岡県出身。高校時代、陸上でインターハイ出場。ベストタイム10秒84(100M)

美容師免許、管理美容師免許取得。

MIXIコミュニティー、「鈴木が書く世界一周旅行記が好きだ」2800人突破。

http://mixi.jp/view_community.pl?id=3502328

現在、一眼レフカメラ片手に世界を放浪中。

ブログ「地球の迷い方。～世界放浪編～」

<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>

※ この作品は、前号のテーマ「旅で気づいた幸福論」の中の一編の後編です。前編をお読みでない方は、ぜひ前編を先にお読みいただくことをお勧めします。

「あれが私の家よ」

俺の後ろを歩く11歳のお姉ちゃんのリンがそう言った。

リンの指が指す方を目で追うと、一軒の小さな藁葺きの小屋が見えた。5歳の妹のイェンが、その小屋の中に入って行くのが見える。

あれが2人が生活する家か。少数民族のイェンとリンが暮らす家なのか。俺は、はやる気持ちを抑えきれずに、走り出した。

「……おお……」

藁葺きの小屋に足を踏み入れると、俺は思わず声を出してしまった。

家の中は……床なんてものは無かった。

地面の土が丸出しで、木と竹で組み立てられたベットが無造作に置かれていた。そのすぐ横に、火をおこす囲炉裏があり、ポロポロの鍋やヤカンが、乱雑に置かれていた。

壁には斧立てかけてあり、部屋の隅に薪が積まれていた。

土の匂いと、灰の匂いが鼻をつく。何処か懐かしい感じがした。

自分がまだ学生で、旅とは無縁の生活をしてた頃、世界ウルルン滞在記に憧れていた俺。

TVの中の映像となんら変わらない世界が、目の前にある。

昭和30年代の『三丁目の夕日』より、はるか昔の生活がここにある。

アドレナリンが出てくるのが自分でも解った。妙な達成感で胸がいっぱいになった。

「OH—！！」

リンの声が聞こえた。振り返ると……

さっきまでリンが背負っていたヨチヨチ歩きの子供が、踏ん張ってウンチをしていた。

玄関の中央にしゃがみこんで、ウンチをしていた。

な、な、何て素晴らしい場所にウンチを落とす子供だ！！でも……ウンチが全部自分の足についてしまっていた。

それを見ていたリンはやれやれといった表情で一息つくと、子供を抱え上げ家を出て、近くの水道まで連れて行った。

そして水道の水で、バシャバシャと足やお尻を洗ってあげる。

慣れた手付きだ。

お母さんやお父さんの姿が見えないが、働きに出ているのだろうか。その間、この11歳のリンが、この子供達の母親代わりなのかもしれない。

年齢のわりに本当にしっかりしている。

赤ん坊の足とお尻を洗い終わると、リンは顔をあげ、俺を見た。

「SUZUKI、ハングリー now？」

リンは俺に向かってそう尋ねた。

俺が

「少し！」

と答えると……、

「OK！なんか作ってあげる！！」

とニコっと笑いながら言った。

そして再び家の中に入って行った。

リン達が普段どのような物を食べているのだろうか？とても興味がある。

家の中に入るとリンは、壁に立てかけてあった斧を手に取り、豪快に薪を割りはじめた。

そして小さく割った薪を、囲炉裏の上に積み重ねて置き、新聞紙を、薪の下に入れた。

マッチをこすり、新聞紙に火をつける。パチパチという音と共に、煙が上がりはじめた。

リンは顔を火に近づけ、ふーふーと息を吹きかけた。リンの横顔が、火で赤く染まった。

火が薪に燃え移ると、水が入った鍋を火の上に置いた。

ガスやコンロのある日本とは違い、ここでは、山で薪を集める事から始めるのだろう。

慣れた手付きのリンに

「凄いねー！グレート!!」

って声をかけると、リンは少し恥ずかしそうにほっぺたを2回、ポリポリとかいた。

リンの手に炭が付いていたのだろう。ほっぺが炭で黒く汚れた。

木の椅子に座って鍋が煮るのを待っていると、隣でリンが縫い物をしだした。

一つ一つ手で器用に縫っている。きっとこれも観光客に売るのがだろう。

ふと壁に目をやると、1枚の写真が飾ってあった。

立ち上がり写真に目をやる。

写真にはリンが写っていた。だが……今のリンよりだいぶ若い。

「この写真どうしたの？」

「日本人がくれたの」

縫い物の手を止め、リンはそう答えた。

「家にある写真、その1枚だけ！」

リンはおちゃらけた感じでさらりと言った。この写真、彼女にとってきっと大切な一枚なのだろう。

鍋がグツグツと煮えてきた。火の強さを薪の量で調節するリン。

30分もするといい匂いが漂ってきた。食事が出来たようだ。

リンは鍋の中からご飯をすくい、俺の前に置いてくれた。

本日のリン家のご飯は、少し水っぽいご飯。ほうれん草のおひたし。インスタントラーメン。

この三つだ。

ほうれん草のおひたしは味が無いので、何をおかずにご飯を食べていいか分からなかったが、リンとイェンはインスタントラーメンのスープを、ご飯にかけて食べていた。

俺も真似した。普通のラーメンご飯だ。

ほうれん草のおひたしを、沢山食べてしまうと、彼女達のおかずが無くなってしまうので、遠慮してあまり箸をつけられなかった。

そこそこお腹が膨れたので、お礼を言って箸をおく。そしてこの辺りを散策してみる事にした。



村を外れ、道を下る。5分ほど下ると、視界が開けて川が見えた。
綺麗な小川だ。小川の向こうには緑いっぱいの山がいくつも連なっている。
川では、地元の女性が背中に赤ん坊をおぶり、パチャパチャと洗濯をしている。

川の近くの、大きな石に腰を下ろす俺。
やんちゃなイェンは、キャッキヤ騒ぎながらバシャバシャと川に入ってゆく。ズボンがビショビショになっちゃってるけど、何だか気持ちがよさそうだ。

リンは、俺のすぐ隣に腰をおろした。そして優しい顔立ちで川ではしゃぐ妹を眺めている。

ふと遠くを見ると、川の上流でも子供が3人、仲良く遊んでいた。その近くには母親らしき人の姿も見える。

川で遊ぶ子供達が、とても幸せそうに見えた。
そしてこんな時にふと、頭をよぎった。俺の友達が言った言葉が頭をよぎった。

半年を使い、アジアを放浪した友達のマメはこんな事を口にしていた。

「タイの田舎のパーイに行った時なんだけどさ、朝から晩までのんびりと、親とか兄弟に囲まれて、遊んでる子供たちをみて、日本で暮らすよりも、貧し



いながらもこっちで暮らす人達の方が幸せかもしれないなって……幸せってなんだろなーって色々考えさせられたよ」

ガストと一緒にパスタをすすってる時に、マメはこんな事を口にしていた。

確かにその通りかもしれないと、旅を始めて感じる様になった。

田舎で沢山の兄弟に囲まれ、勉強や塾や宿題に追われる事なく、山や川でのんびり遊んで過ごす。

受験勉強！課題！ストレス社会！出世レース！サービス残業休暇なし！なんて無縁の世界だ。

病気になったり事故にあったりしたら大変かもしれないが、日本で生活するよりストレスが少ないかもしれない。

確かにリン達の生活を見ると、金持ちだからって幸せとは限らないなと思わされる。

現に日本は、世界的にみて有数の恵まれた国だが、自殺者の数がとてもに多い。年間の自殺者は3万人を軽く超える。事故死として処理されている人を入れたら、一体どれ位の数になるのだろうか？うつ病の人を入れたら一体どれ位の数になるのだろうか？

奇跡のように恵まれた国なのに、自殺者世界トップ。

日本人はそんなに、くそ真面目に生きなくていいのにな……と、海外で生活する人たちの適当さや、ゆるさを見てるとそう感じる時が多々ある。

というか、戦争が無いだけでも幸せな事だとも思うようになった。

人類が誕生して、くそ長い歴史の中で、殺し合いをせず、安心して平和に暮らせるようになったのは、ごく最近な事の様だ。

死におびえながら生活してないだけでも恵まれているし、とても幸せな事。旅に出て、戦争の傷跡を見てから激しく思うようになった。

いつの間にか、真上にあったお日様も、だいぶ低い位置に移動していた。あと30分ほどで日も沈むだろう。

川遊びで泥だらけになったイエンを呼び、2人が住む藁葺きの家に戻る。

何だか今日はいい経験が出来た。非日常な体験が出来た。

でも……、俺にとっては非日常な体験だったけど、彼女達にとっては、いつもと同じ1日なのだろう。これが子供達の日常なのだろう。

帰る前に何かお土産を買ってやろうかと思い、リンに見せてもらう。

最初は、世話になったから帰りにお土産の1つでも買ってやろうかなと考え
ていたが……今は単純に、この子が作ったお土産が欲しいと思った。

「もうラオスに行っちゃうんでしょ？次はいつサパに戻って来るの？」

俺が帰り支度をしだすと、リンは俺を見上げながら尋ねてきた。

「うーん。次来るのは……1年後か2年後かな。来れるか分からないけど
……。でも、もし次きたとき、写真、今日撮った写真持ってくるよ！！あげる
よ！！」

「ほんと!？」

リンの顔がパァーっと明るくなった。

またいつサパに戻ってくるか分からないけど、もし戻ってきたら今日撮った
写真を届けてあげよう。

するとリンは薬指を出してきた。……何だろう……？

「プロミス！！」

プ、プロミス？確か……約束って意味だったよな。

「お、OK!!!プロミスだ!!!」

そう言って俺も小指を出した。そしてリンと指切りをした。リンが満面の笑
みだった事が、何だか嬉しかった。

そして俺はこれから……これから世界を放浪する訳だか、リンはこれから
も、この藁葺きの家に暮らし、お土産物を観光客に売る。

今は同じ時間を共有しているが、明日から全く違う生活が始まる。

その事が、何だか少し、不思議な事に感じた。



リンとがっちり握手をし、イェンを軽くハグしてから別れた。

きっと2人はすぐに俺の事は忘れるだろうけど、俺は今日の事はずっと忘れられないだろうなと思った。

2人に会えて良かったと思った。

バイクタクシーを捕まえ、町まで戻る。

町では、相変わらず民族衣装を着た少数民族達が、観光客にお土産を売り付けていた。

このベトナムのサパの町は楽しかった。でもベトナムに滞在してもう一ヶ月になる。ビザが切れる。もうちょっとサパに居たいが、タイムリミットだ。後ろ髪を引かれる位が、きっと丁度いいだろう。

サパを出て、ラオスに向かおう。ラオスの小さな村ムアンクアを目指そう。

俺は次の日、バスに乗り、サパを去った。

そして癒しの国ラオスに向かったのだった。



☆個人的なお勧めルートを書いておきます。

サパ→ディエンビエンフー→国境（ラオス入国）→ムアンクア→ポートで川を下ってムアンゴイ→川を下ってルアンパバン。

オランダ人がこのルートはファンタスティックだ！と言っていましたが、本当にファンタスティックでした。当時、地球の歩き方には載っていませんでしたが（今は載ってるのかな？）、マイナーなルートだけど、是非お試しあれ。ベトナム→ラオスに抜けるお勧めルートでした。

私がフィリピン英語留学をする理由

～世界一周で感じた後悔を次に生かす～

■Writer

大谷 浩則

■Age

29歳

■Profile

猪突猛進のトイレットパッカー。現在世界2周目！

フィリピン留学からスタート。

旅のPodcast配信しています！

Podcast:ウィーリーのバックパッカーラジオ 世界一周アワー

<http://tabitabi-podcast.com/sekai1/>

Blog:ウィーリー 海外放浪×地球一周×フィリピン留学

～実況！旅人アワー～

<http://ameblo.jp/hero23/>

Twitter:@taniwheelie

2012年4月15日よりフィリピン英語留学をしています。今回は①何故フィリピン留学をするのか、②留学を始めてみてどう感じているか。の2つについてお話しします。

私は2009年4月から2010年6月まで423日間、世界一周をしました。帰国後多くの方に言われました。

「世界一周したのだから英語は話せるんでしょ？」

と。私はこの言葉を聞くと胸が痛みます。というのも、英語はほとんど話さず（話せず）、ジェスチャーのみで旅をしていたからです。その結果外国人の友達はほんの数人しかできなかったのです。このことが非常に後悔に繋がっているのです。

せっかく423日も旅をしたのに、英語も話せない。英語を話せないから各地の文化的背景を知ることも出来なかったし、交友関係も狭いです。前回の世界一周は単なる「観光的世界一周じゃないか！」と悔いる気持ちが強くなりました。長期旅行だからこそ出来ることがあるのではないかと。

そこでその後悔を生かすために、世界二周目の旅に行くことを決意し、旅のスタートをフィリピン英語留学に決めたのです。

具体的にフィリピン留学の中身を調べ出したのは旅開始の半年前（2011年10月）からです。とりあえずフィリピン留学を扱う代理店数10社から資料を集め、自分に合いそうな留学先を決めました（実際お願いする代理店の留学説明会にも2回ほど参加して、見識を深めました）。その結果、フィリピン・マニラはケソンシティにあるAPCという学校を選びました。

選んだ理由としては

- ・マニラやセブの方が講師の質が高い
- ・マンツーマン授業が多いカリキュラム
- ・日本人の学生が少ない（日本語を話す環境が少ない）
- ・セブにするとダイビングにはまりそう。

が挙げられます。「英語を話せる、聞けるようになる」というのが最優先なので「遊び」要素を外しました。

とにかく多くの外国人と会話をしたいのです。そして、その土地の文化的背景や、歴史、生活などに詳しくなりたいのです。言語を話さなくても旅は出来ます。しかし、言語を話せることで旅の質は確実に高まります。私の世界二周目はそんな気持ちが込められています。

そんな気持ちを抱きながらついに、マニラで英語留学が始まりました。韓国人資本の学校で、最初は不安もありましたが翌日には慣れるものですね。しかし、掲示板の表記がハングルしかないときは焦りました。そして施設の説明がハングルでされたときは文句を言いたくなります。こういった点は、今後日本人が韓国人資本の学校を選ぶ際に気にするべきことでしょう。

生活場所は寮になりまして二人部屋です（支払金額により一人部屋、3人部屋等選べます）。安宿のドミトリーよりはるかにきれいなので快適です（ただ、ドミトリーが初めての方には汚いと感じるかもしれません）。食事は食堂で3食とります。基本は韓国料理で個人的にはおいしいと感じます。野菜が豊富に出るので栄養も偏りませんし、生野菜を食べない私にとって、火を通した料理が多い韓国料理は助かります。

授業のカリキュラムは50分授業が1日9コマ（6コマ必須、3コマ選択）です。内容としてはスピーキング、リスニング、ライティング、リーディング、グラマーなどのセクションに分かれていて自分で選べます。私は苦手のリスニング、スピーキングを中心に選びました。とにかく英語を聞きまくって英語慣れしたいと思います。

こんな感じでフィリピン留学がスタートしました。3か月の留学ですが現地で感じたことなどをお伝えできればと思います。

※あくまでも私が通っている学校をベースにしてお話しています。ご了承ください。



MAISON D'HOTE AMANDE CHEZ NORIKO

「モロッコのグランド
キャニオン」と呼ばれ
るトドラ渓谷までのん
びり徒歩30分で行ける
日本人が経営するアッ
トホームな宿。
バルコニーからは一枚
岩が眺められ、手前の
畑にはアーモンドの
木々が見え春にはサ
クラのような花が咲き
花吹雪を楽しむことが
できる。

◆料金◆

宿泊代 70DH
朝食 20DH
夕食 50DH
洗濯機使用料 10DH

◆設備◆

部屋数4室
サロン
大きめのバルコニー
Wi-Fi
シャワー室・トイレ共同

日本食もO・K

家庭的な
小さな宿



◆住所・お問い合わせ◆

住所

Ait Ousalene Tizgui TINGHIR 45800 MARO

電話番号

+212(0)6 7040 4369

+212(0)6 5319 5219

モロッコ国内からは0653195219

E-MAIL

amande@hotmail.co.jp

詳しくはホームページで

<http://amandecheznoriko.web.fc2.com>



MOROCCO
TODRA GORGE

THIS IS YOUR BACKPACKER

旅人の数だけ違った
スタイルがあっという。

これはあなたのバックパッカーライフです。

LIFE.

バックパッカーで旅をするって特別なことですか？あなたは旅バカですか？

もしアナタがクローゼットの中にあるバックパックに想いを馳せるなら「旅バカ」です。

苦楽を共にしてきた数々の相棒を捨てられずにいるなら、間違いなく「旅バカ」です。

残念なことにそれは **不治の病** です。一度目は衝撃の印度
2度目はうまくやれるナマステ 3度目はもう病気です！

バックパッカーの大好物, 最北端, 最南端, 最西端, 最東端, 赤道, 南北回帰線,

洞窟, 離島, そして僻地, 辺境, 秘境, 越境…

越境！ バックパッカーの妖しい与太話に散りばめられた真実、
そして名もなき旅人たちが残し受け継いできた、

「金の北米、女の南米、
数々のバックパッカー名言&格言。

耐えてアフリカ、歴史のアジア、何もないのがヨーロッパ、

問題外のオセアニア」放浪 流浪 徘徊 ジブシー ノマド ボヘミアン etc...

行った国の数はそんなに大切なのか？ 世界一周って何ですか？ あのガイドブックの裏話。

J-Backpacker styleの系譜。

それは『何でも見てやろう』から始まった。結論のでないあの愛しきバックパッカー論の数々。

「日本人宿/ガイドブック/節約ピンボー旅/夜のパトロール」カニ族全盛期から時は刻まれ、

いまやバックパッカー3.0 爺ちゃんも両親も旅人の3世代目バックパッカー出現！

スマホ、Wi-Fi, LCC, ナチュラルボーン…デジタルネイティブで、ソーシャル・ヒッピーな

こちら側の世界へようこそ。 **旅は変わっちまったのかい？**

バックパッカー新聞、 旅の環境や手法が変わっても、やっぱり旅は人

創刊です。 との出逢いだ、やっぱり人が断然オモシロイ。

わたしたちは、そんなバックパッカー現役OB/OG、

そしてこれからバックパックを担いで旅に

出る仲間のベースキャンプとなりたい。

Coming soon. 『バックパッカー新聞』 Published By Japan Backpackers Link 発行人 編集長 向井通浩

<http://www.mag2.com/m/0001521550.html>



Brali Biz

「旅」×「ビジネス」

旅を旅だけで終わらせない。そんな
考えの人も少なくはないはず。

旅を何かに活かしたい。

仕事をしながら旅をし続けたい。旅
に関わる仕事をしたい。旅人を相手
にする仕事をしたい。

実践している人たちがいます。

実践者達へストレートにインタビュ
ーを試み、「旅」×「ビジネス」を
検証し連載するコーナーです。



佐谷 恭

第2回



★プロフィール

株式会社旅と平和・代表取締役。旅で体験したポジティブな面を日本に持ち帰り、日本社会を明るく楽しくするために事業展開しています。常識に支配されぬよう、自分の目で確かめたもののみを信じて行動します。大学時代に旅を始めて以来、今でいうSNSのリアル版をずっと続けています。そして思いついたのが“旅人が平和を創る”という考え方。これを自分の行動によって証明していきます。

2012年のメドックマラソンと一緒に走る人を募集しています。興味ある方はぜひメッセージをください。

近況を伝えるメルマガを発行しています。

<http://archive.mag2.com/0001113585/index.html>

飲食店とコワーキングスペースを経営されている佐谷さんに、起業する経緯やどう立ち上げていったかをお聞きしました。

---起業前にどんな旅行されてましたか？

ユーラシア大陸でも横断しようかなと思ったら、天津と北京とウランバートルとモスクワとあとエストニア・ポーランド・スイス・フランスに友達が住んでたから「よし、まとめて会いに行こう」と。

本当は、モスクワ経由っていうかシベリア鉄道でヨーロッパに行こうと思ってたんだけど、ロシアが6月に国民の休日かなんかやたらあって、モンゴ

ルの2週間のビザの期限でロシアビザがとれないことが判明して。それで一番ヨーロッパで安かったのがラトビアだったんで、ラトビアに飛んでフランスまで行って。フランスでモンサンミッシェルに友達が行くって言うんで、モンサンミッシェルなんか全然行く予定なかったんだけど行って。「シベリア鉄道乗ったの？」って聞かれ「実は乗ってないんだよね」って言ったら「そっか、じゃ帰り乗るんだね」って言われ「帰りかぁ、ロンドン行こうと思ってたけど、どうしようかなあ」っ

てパリで飲んで話してた時「一晩夜行でドイツくらいまで行けるよ」って言われて。それでドイツまで行き船でエストニア行って、エストニアではロシアビザが取りやすいって言われて。実際一日で取れたんですよ。それでシベリア鉄道乗って帰ってきた。

一起業される前はどんな仕事に就かれていましたか？

会社員は大学卒業して富士通入って3年くらい。その後、リサイクルワンっていう友だちが作ったベンチャー企業に入って、その後イギリスの大学院で「旅と平和」という論文を書いて、ライブドアに入ってニュース部門の立ち上げとかしました。

ボクのイメージでは当時まだなかったけど、クーリエジャポンってあるじゃないですか。イギリスにいるときに、あれみたいな。日本の情報って、日本人の例えば左翼とか右翼とかっていう論調があるけど、アラブとかアメリカから見た「侍ってどうだ」みたいな。そういう視点って大事なんじゃないかなって思って。（ライブドア社長）逮捕後はやっぱり、結果的には逮捕の一年後に、ニュース部門は不採算部門なんで閉じましょかと。

で子供が生まれるってわかって、じゃあ事業を立ち上げて自分の時間を確保しよう、それなら自分がイギリスで考えてた「旅と平和」っていうテーマの事業をしようかなって。

それが2006年の10月頃で、パクチーハウスを作ろうと思ったのはそれから半年後ですね。独立しようとは思ってたけど、何やろうか実は全然決まらなくて。

→最初に起業されたのはパクチーハウスという飲食店とのことですが、なぜ「パクチー」だったんでしょうか？

パクチーハウスを作ろうと思う前に、ビジネスを起こそうという気が全くなくて、「日本パクチー狂会」っていうパクチーに狂う会を作ったんです。

これを作ったきっかけは、予備校時代から飲み会を主催し幹事をよくやっていて、大学入ったら旅人の飲み会サークルを作ってた、「旅先で会った人ともう一度会うにはどうしたらいいか」というので。昔はFacebookとかtwitterも、メールとかもないんで、実家の住所とか実家の電話番号書いて。連絡したって絶対出るわけないし。例えばなにに君に電話して「パキスタンで会った佐谷と申します」。親が出て「はあ〜？」みたいな。けどもう一回会ったら面白いんじゃないかなあって、京都にみんな呼ぼうと思って飲み会をしたら、例えばサイゴンとかソウルとかのゲストハウスで起こった面白い空間が京都でもできた。

社会人になっても宴会を続けて、今まで僕が開催したパーティはたぶん1000回以上にのぼると思います。そういうのをずっとやってたんで、パクチー栽培してた人が（高校の同級生の料理研究家なんですけど）パクチーを使ってパーティをしたいから「企画してよ」って丸投げされて。

そしたらパクチーがよく旅先で話題になるってあるじゃないですか。食べれる食べれないとか。実際その人集めをしようとして同僚とかに声をかけたら、時間が空いてるけど行きたくないって人と、予定が入ってるけど調整するから待ってっていう人がいて、なん

か反応が面白いよねっていう話をパクチーの会をやりながら話してて、この反応ってインドに似てるって思ったんですよね。好き嫌いが。インドは好きな人と嫌いな人しかいない、本当は中間の人もいるんだけど、インパクトが強いんで。『パクチーはインドっぽい』このキーワードを僕は自分のものにしたいなと思って。

パクチー狂会を作ったのが29歳ぐらい。学生の頃は「旅人集まれ」っていうと、それなりに集まったんだけど、大人になると旅人って言っても学生時代みたいなバックパッカー旅行だけじゃなくって、週末海外みたいな人もいるし、いろんなタイプの人が出て、旅人という言葉に対する反応がちょっと鈍くなった感じがするんですよね。だから旅人集まれっていうのが、極端な話で言うと例えば「人間集まれ」って言って、「面白そうだから、行こうかな」っていう人いないじゃないですか。みんな人間だし。層が厚くなったっていうか数が増えたっていうか。で、『パクチーはインドっぽい』って思った時に、パクチーって日本にないから、旅する人のキーワードになるかなと思って「パクチーで集まれ」っていう言い方ができるな。パクチーは好き嫌いとかじゃなくってこれをメディアとしてとらえようと思って。そんなときからパクチーはメディアだって言ってるんですけど。この会に名前を付けようと、提案した時に色々話したんだけど、大きく出ようということで日本をつけて、パクチーに狂う会っていう「日本パクチー狂会」と名前をなんとなく決めて。

それで「日本パクチー狂会」を広めようと思い、とりあえずブログで「日

本パクチー狂会」結成、こういう会を作りました！って書いたら、コメントとかが結構付いて。これは面白いとなって、この冗談はもうちょっと真面目にやろうと思って。「日本パクチー狂会」のコミュニティサイトを作ろうと。したらそのサイトが一部で大受けして、一部ですけど。たった1ヶ月でヤフー登録サイトになったんですよ。あっという間に会員が100人超えて、ヤフーの登録サイトになったから注目度も上がって。この集まった人を僕の発想は一つしかなくて、飲もう！と思って。パクチー狂会のオフ会だからパクチーで集まるけど、パクチーの話をするために集まるんじゃないくて、どこを旅した、旅の話、旅人の会、ちょっと形もできるかなと思ってやったんですね。 実際来る人で面白い人がいたんですけど、実は全然思いもしなかった問題にぶち当たって。パクチーあんまり出してないんですよね、世の中の店では。殆ど無いです。最近増えてきましたけど。タイ料理屋に行けば当時はあると思ったんです僕は。でも無いんです。店の予約もできないし、パクチーの会で全然パクチーが無いんじゃないでしょうもないんで、パクチーを持ち寄るバーベキューパーティとかパクチー料理を開発して持って来いパーティとかそういうのしかできなかったですね。

---会社を設立する経緯を教えてください。

今の会社名が株式会社旅と平和っていうんですけど、そのテーマでなんかやらなきゃいけないなって思ってたんです。子供が生まれることがわかつ

て、子供との時間を作りたいとか色々考えて、会社員生活ってなんかそういうのに相応しくないんじゃないかなと思って、で前から会社なんてできれば辞めたいと思って。

自分の中には旅人として色々見てきたんで、その会社は何しようとしたかという、商社みたいに物を運ぶ仕事はずっと昔からあって、ホテルとかレストランとかみたいなものも、ここ3、40年で外資系、ホテルは5つ星ホテルとかは2000年になってからだけど、そういうサービスも来てる。けどどれも日本のためにカスタマイズとかっていう手続きが入っている。俺達が旅先で、ゲストハウスの普段の質だったり、そこに入っていたことによって、日本人の感覚を持っている自分が受けるショック。それらから学んだことが多いんで、ある瞬間をそのまま持ってくるということが、何らかの形でできないかなと。一応それを僕はコンセプトの輸入とその時名付けたんですけど。そういうコンセプトの輸入業ってないんじゃないかなあって思ったんで。本当に思いつきですね。漠然ですけどこれをやろうと思ってどういう形でやればいいかなと具体化するのに半年かかって。

自分が何かを伝えるときに、自分の得意分野って唯一さっきから言ってる宴会しか無いので、宴会という場所を使って。最初は、事業はなんかやりつつ考えてることを伝えるための場所として飲食店を借りてパーティをするっていう、とにかく場所を借りてそういうことをやっていこうって思って。

そのための提案をどっかの飲食店にしようかなと思って。ただ飲食店の経営って全く知らないんで、一応調べてみよう、飲食店に関する本を10冊か

20冊借りてバーっと見て、そうするとなんか「こうすると儲かる飲食店」とか立ち上げとか色々あるでしょうけど、もうつまなくてしょうがなくて本が。2007年当時流行ってたのが膝つき接客っていう言葉があって「はい、お客様」あれがなんか気持ち悪い。そういうのがいっぱい書いてある。「こうすべきだ」とかね。今の居酒屋のあり方で繁盛店作るためにこうすべきって言うよりも、あのパキスタンの屋台の注文してないけど怒られたとかの方がすごいわかるよね。最後なんか知らないけどナンにスイーツ塗って「(お前に)やる」みたいなこと言われて食べたり。頼んでないのに「ヨーグルト食え」みたいなあるじゃないですか。そういうのと何が違うのかなと思って。何が足りないかって言うと、なんかそういうところじゃないかなって、そこにあるコミュニケーションとか。彼らが丁寧だったら満足するかっていうと全然そうじゃないし、そこが全てじゃないなと思って、色々考えているうちに面倒くせえから自分でやるかって。

最初資金回収できなかったらどうしようとか、よく聞くじゃない。そういう心配してたんだけど、飲食店で帰りに払うじゃないですか、だから資金回収の問題とか無いし、モノ買って加工して出してお金もらって流れが見えやすいんで経営者の経験がない僕にとってはものすごくわかりやすいんじゃないか。事業としては凄くいいんじゃないかと。自分で店を作るっていう発想になった瞬間に、今言った経営したことない人が見る数字としてはわかりやすいし、ビジネスもわかりやすいし。もうあとはネタがひとつしかなかった。パクチーしかないじゃん。

「日本パクチー狂会」があったから。レシピも集めてたし。ただ飲食店というのは流行り廃りがあるんで2年間だと思って、パクチーで3つくらい雑誌の取材くるかなって思ってたんすよ。それくらいくるだろうって。雑誌に載ったらお客来るだろうって思ってたんですよ。一つでも載れば凄い来ると思ってそれで2年ぐらやって、あとはパクチーハウスで実際にやる相席とかパーティエイトとか人と人とが繋がるような仕組みをその2年間で確立させて、面白い店にどんどん変えていけばいいやって思いついたんで、もうこれだなと。それから事業計画を書き始めて。

→起業にあたってへこんだことはないですか？

ポロクソですよ。パクチー屋開くって言ったら。例えば、全然わかんなかったんで友達の縁で外食コンサルタントとか中小企業診断士とか紹介してもらって。そうずっと「危険だ」とか言って。「あの～あなたやったことないんでしょ、経験ないっていったよね。経験ない人がいきなり飲食業やるだけじゃなくって交流だとかパクチーだとか言って無理だよ」って一回言われました。無理じゃねえよと思って。「無理だよ」って言われてコイツ全然わかってねえなあと思って。だからコンサルタントだめなんだよって。バカだなあ表面ばかり捉えてとか思って本当にどうしようもねえなあって思って。

→PAX COWORKINGですがコワーキング事業は儲かるんでしょうか？

収益は月々の人は使用料、一日単位の人で使う人も出てくるんで入場料です。主な経費は不動産賃料。始めてから1年と8ヶ月。

不動産的にシェアオフィスのように受付置いてたら赤字ですね。うちのメンバー増えてきてもまだ苦しいみたい。ただまだ、飲食店プラスでやってるんで、このメンバーで飲みに来てくれる人とかを計算に入れば凄く効果あるし、コミュニティっていう発想で、食事の場からオフィスへっていう流れをやったなんかそれが最近いろんな所で出てきて、パクチーハウスの記事を書く時にコワーキングやってるって記事を書いてくれる人が出てきたり。まあたぶん逆も出てくる。そうするとかなり空間の面白さが伝わる。単なるパクチー屋じゃない、っていうのはよく見えるよね。そういう効果は凄くある。東京で僕が初めてやって、今東京には30ヶ所くらいコワーキングスペースってありますけど、集客がうまい人もいるけど、単独だと難しいし、うん不動産的になっちゃうし、コワーキングのコミュニティがどこまでできるか。シェアオフィスとそれほど変わらないトコとか、会話をしないとか、人が固まっちゃってるとか。

→飲食店とは全く違う業態のコワーキングスペースを始めようと思ったきっかけは何でしょうか？

パクチーハウスで人と人とが繋がりが合うような仕組みにしてたんで、最初

は仲良くなる人が出てきて、また一緒に来る人ができて、で話し聞いてたらある人がなんか独立して開業する時に一緒に始めるって。へーって聞いてたら「パクチーハウスで知り合ったんですよ」って言われて、あっそうなのって。

パクチーハウス作って凄く来てくれる人が楽しく「こんないい空間ないよ」って言うけど、みんな仕事しに帰ってまた暗くてなって。昼晩合せて食事の時間で一日3時間から5時間くらい。睡眠と仕事がそれぞれ8時間。会社ももっと面白くすればいいじゃんって思ったから、仕事場を作りたいな、オフィスを作りたいなと。でまあ今最近言ってる言葉で言うと「パーティするように仕事する空間」を作りたいなと漠然と思って。なんで全くコンセプトは同じなんです。

→佐谷さんにとって事業を起こす上で大事な点は？

業種で言うと何業でもいいんですけど、たまたま飲食業っていう箱を最初に利用しようと思って、自分でやるとなると、そこになんか実際そういう自分が思い描いているコミュニティとか空間ができるっていう。そこが一番大事なんです。

シェアオフィスと普通の飲食店は接客業なんです。僕の飲食店はあんまり接客業ではない。お客さんに動いて欲しいし。スタッフが働かないって意味じゃなくて。お客さんが例えば座って待ってるんじゃなくて自分でショーケースに行って「このラベルいいじゃん」って自分で取って動きをつけるとか、単に座ってないで立ち飲みのス

ペースに面白そうな人がいたら歩いて行って話しかけるとか。全然決まってるけど、これから何かやる時に何とか業かもしれないけれどもコンセプトは同じっていうふうにすると思いますね。

→コミュニティや空間はどうやって作り上げてきましたか？

コミュニティとかは、誰かが一人で作るものじゃないんで、例えば僕がいなかったら雰囲気は全然違いますよってなるとダメというかそれは失敗なんです。僕がいても「あいつ来たから面倒くせえな」とか、わかるじゃないですか。そうすると大失敗ですよ。

パクチーハウスもね、相席とか批判する人がいっぱいいる、食べログ見るとね。予約したのになら。相席にしてるってのは最初からあった。オープンして数ヶ月、どうやったらこの面白さを伝えたらいいか。ま、それこそ「じゃあ、よろしく！」みたいなわけにはいかないじゃないですか。たまたま

「その料理なんですか？」みたいな、旅に行ってメニューにないけど、このおっさんのを見てたら向こうも「じゃあ一つ食べよ」とか「飲め」とかね。そういうのを目指してたんで、そこにどうやて到達すればいいかっていうことを考えて。最初のうちは友達が来る時に、全然こっちの人は知らないけど「向こうの人は僕の友人で旅してるやつですよ」っていうのをやったり。

メニューがけっこう珍しかった最初のうちは、ビジュアルメニューじゃなかったんで、見ても字で書いてあっただけ。しかもそれでいて僕のオリジナルの名前なんで全くわからない。それ

は聞かなくやわかんないでしょって。で、メニューを注文する以外にまず店員と話すように。だから絶対わかるわけないのに、初めて来て聞かない人もいますよ。でも聞かないと「うわっこれすごっ」とか。あと隣の人のがたのんでるのが「なんですかね？」みたいな感じでけっこう自然に話す人が出てきて。

あとはパクチーっていうのが珍しかったんで、僕の当初の目論見の、雑誌に3つに載るっていう計画を全く予想はずれて、オープンする前から取材が4, 5件入って、1年で100件くらい。で今4年なんで300件くらい。だからそれなりに混んで。あとはポストカード割りっていうのがあって、海外からポストカードをパクチーハウスに送って来ると5%引きなんです。それは旅の気分を味わって欲しいっていうのと、うちのスタッフも嬉しいじゃないですか。単純にエアメール来て。最近では来る日にちがわかってる時は、ツイッターで「カナダからポストカード送ってくれた人が来ますよ」と書いて。カナダぐらいだとあれだけ。例えばそれがアフガニスタンだったりナイジェリアぐらいだったら「ナイジェリアの話聞きたい人どうぞ」とか書いて。それで本当に来る時があって、そうしたら「ナイジェリアの人ここだよ」って。

---佐谷さんの今後の事業展開予定について教えて下さい。

パクチーハウスの商圈っていう発想があって、飲食店はだいたい500mとか一駅であって、コンビニだと250mとかで成り立つそのくらいの間の

人を相手に商売する。僕は商圈2万kmって言うてる。世界中からここにくる。カオサン東京ゲストハウスと業務提携した理由は、あの人は外人のお客さん達、ウチは旅人が多いから。そういうお客さんもくればいいなあと思うし。一人くらい旅から帰ってきたとか、今旅してるとか。今日はなんか面白い人いるかなって覗いたら、ちょうどヨーロッパから来てアメリカ大陸に飛ぶところのドイツ人とかいるといいなあと思って。

店作ったらすぐ取材の人が「2号店を」って言うんだけどそれを完全否定したかったし、実際店作ってすぐ地方都市からも来てくれて、ロイター通信が取材してくれたんでメキシコ人とかイタリア人とか来てくれたんですよ。で、来るなら(2号店)作る必要ないよね。凄く遠くだったらいいかなとか思って。関空の近くとか地方都市かもしれない海外とか。その可能性は両方共商圈2万km。ここと下北沢とかだと同じ地域の人には近いほうがいいんだよね。その時点で面白くないんで。全く違うところだったらいいかなって。ちょっと考えたんですよ。夢のまた夢ですけどいくつかあったら、仕事に飽きたスタッフとかに「ロンドン店に行ってくい」とか。できても面白いかなと。そういうのはありかな。



—起業を志す方へ一言お願いします

起業しようと思って、ひとつだけ恵まれてるしラッキーだし怖くないなって思ったのは、世界に出ていろんな人見て「この人は悪いけど一生こうだろうな。こっから抜け出せない」って状況の人ってたくさんいるじゃないですか。で、旅先で友達になって、またこいつと会いたいなって人がいても抜け出せないから、そいつがいきなり例えば成田に来て電話してくるって絶対ありえないんでなんか対等じゃない。面白く無いなって思って。僕そういう意味で格差とかなくなればいいなって思ってるんですよ。

自分が旅先にいる人でなくて旅をする人であったこと自体がものすごくラッキーだった。事業やって失敗したって死ぬわけじゃないし、バイトしたっ

て家族ぐらい食わせられるし、たぶん旅もできるなあと思って。大企業なんか辞めたらどうなるかわかったもんじゃないよって言うんだけど、大企業にいる方が危険だって可能性もあるから。早くやれよって。すぐやろうよ。いいじゃん失敗しても。失敗したら破産もできるし旅すりゃいいじゃんって。

経営は旅に似てて、どうしようかなあこれって、毎日毎日すごい小さな判断で。それって旅と一緒に例えば今日腹痛いけどバスじゃなくてトイレのある電車にしようかなとか。会社作って一週間くらいした時にそれに気がついて、なんか旅にそっくりだなあと思って。今もそうで面白いこともあるし。トラブルも発生するし。だから旅が好きな人はサラリーマンより経営者の方が向いてると思います。

—ありがとうございました。

くりはらのなんとなくひとこと



旅で得た経験を十分に活かしている方だなあと感じました。

自分が旅で感じた心地いい、楽しい、面白いという空間やコミュニティをある意味持ち運び、別の場所にスライドして実現するというビジネスモデル。それはモノでもなく場所でもなく、そこに集う人達が醸し出す空間というのがキーですね。

また、パクチーをメディアとして捉えるのも凄いですよね。こうすることで、ニッチでコアな需要を掘り起こすのに成功し、客層を店側がうまく選択しリードできる環境をつくり上げることができたんじゃないでしょうか。

「旅が好きな人はサラリーマンより経営者の方が向いてると思います。」って元気づけられますよね。

旅で使えるアプリ

文字通り旅で使えるスマートフォンのアプリの紹介です。昨今ではスマートフォンやタブレットがバックパッカーの間でも普及し、旅の途中も離せない人が増加中。旅を助けてくれる、旅をもっと面白くしてくれるアプリを紹介していきます。

TravelSleep Lite

海外旅行では、時差ボケなどで悩まれる方がいると聞きます。時には時差ボケのため満足な観光を阻害することもあるそうで。僕も実は時差ボケの経験があります。

そこで今回はなんと、睡眠補助アプリというものをご紹介します。

が、最初に言っておきます。僕は眠れませんでした。けっこういつでもどこでも眠れるタイプなのですが。

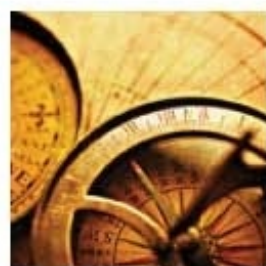
そんなアプリには注意書きがあります。

[注意：トラベルスリープはとても効きます。自動車の運転や重機の操作中に使用しないでください]

凄そうですね。なので人によっては強力なアイテムになるのかもしれませんが、興味のある方は試してみてください。

アプリの説明書きは以下のとおり。

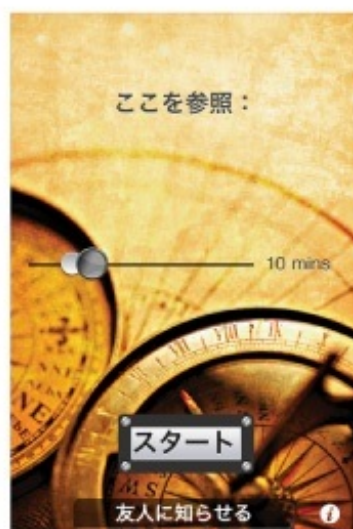
[トラベルスリープは非常に効き目のある睡眠補助アプリで、あらゆる場所の旅行に最適です。最新の精神に作用する音、物理モデリングとデジタルシグナルプロセッシングを使用しています。トラベルスリーピングは人にとって最も効果的で快適な睡眠環境、子宮内部を再現します。その効果は早くそして深いです。すぐに深くリラックスした眠りに入れます。ヘッドホンや外付けスピーカーと共に使用するのが最適です。] だそうです。



使い方は超簡単。

- ① ヘッドホンを挿し装着したら、アイコンをタップする。
- ② 画面下の方に「続ける」と「ロック解除」とありますので「続ける」をタップ。
- ③ 画面下の方の「スタート」をタップして目をつむるだけ。

どうですか？使えますかね？え？もう寝ちゃってます？感想聞けないのが残念だなぁもう。



旅で使えるアプリ、知りませんか？「こないだの旅で、こんなアプリに助けられた」、「便利だった」なんてアプリをお寄せください。

チロリ^の 旅はくせもの

■インド旅行の賜物■

インドでは日々の生活がめんどくさい。気持ち悪いほどきめ細やかなサービスであふれた日本から来ると、とにかく毎日なにがしかめんどくさい。中でも抜きん出てめんどくさいのが、お釣りが無いこと。またまた～、だったら買い物はどうするんだと言いたくなるのもわかるが本当に無い。店員も無いのが当たり前のような顔をして「無い」と言う。

この不可思議な状況を説明したいのだが、まずは通常の買い物の流れをおさらいしてみようと思う。

- 1: 「これが欲しい」と意思表示をする。
- 2: レジ係が相当する金額を示すので、それに等しい、もしくは上回る金額を支払う。
- 3: 過剰分が発生した場合、返金される。

皆さんご存知の通り、「3」で返されるお金が「お釣り」だ。だがインドにはそのお釣りが無い。インドの買い物の流れとしては大体、「1」→押し問答→「2」→過剰分発生→しれっと全額頂戴する or ものすごく待たされる or 飴で返される、の、どれかとなる。

「金でお釣りをくれ」
と言っても



「無いもんは無いんだから」
と煩わしがられるのがオチ。しかも
「この大入りM&Mのマーブルチョコを袋から出して1個ずつ包装してくれ」

とでも言われたかのような煩わしがり方をする。

一方ATMはといえば、普段の生活には全く使い道のない1000ルピー札を当然の顔をして吐き出す。個人商店、安宿は致し方ないとしても、超有名観光地・アジャンタ遺跡（入場料250ルピー）でも拒否られた時には、インドに結構慣れてきたつもりの当時でも非常に驚いた。

そっちがそうならと、こちら小銭を貯めこむことに尽力する。外国人向けのカフェ、都会的なスーパーなどでひたすら大きい札をせっせと出す。嫌な顔をされることもあるが、こっちも遊びでやってんじゃないんだからと気にせずお釣りをもらい受ける。

というように、財布内の小銭・札の構成状況によりその日の行動が決まる訳なので、常にそのことが頭の中に引っかかっている。今日はどっかでお金くずさないと……と、もやもや考えながら歩いていると牛のウンコを踏む。

もう嫌だ。

「お釣りが全部千円札となってしまうて申し訳ない」

と謝罪されてしまう潔癖サイコな母国・日本にただちに帰りたい……と心から願ったあの日もすっかり遠い昔の話。

いい思い出も多いけど、めんどくささが遥かに上回ったので金輪際行くことはないインドのおかげで、今、日本の生活がとっても快適。愚痴を言うこともなくなりました。ちょっとしたことでカリカリしちゃうあなたには、インド行きをお勧めします！

※あくまでも個人の感想です。効果を保証するものではありません。

■Writer&Photographer

Chibirock

■Age

33歳

■Profile

Sigur RosとBeirut鼎員のメタル好きバックパッカー。
チベット越えてインドで太って台湾の農家で大豆を選り分けたり。最近結婚したが放浪やめる気毛頭無し。

<http://blog.chibirock.net/>



HANGOVER

～旅先の酒と肴～

in the world

現地でしか味わえない酒や肴の話。その酒場で出会った人の話など。

キューバの酒

キューバラム酒事情

キューバの酒と言ったら忘れてはいけないのがラムである。

ラムはサトウキビを原料として作られた蒸留酒である。アルコール度数が高いことから、「海賊の酒」とも呼ばれ、長旅による野菜不足が原因のビタミン不足を補う働きもあり、イギリス海兵隊御用達でもあった。まさにカリブ海に位置するキューバを代表する酒である。

ラムで世界的に有名なものと言ったらバカルディ・ラムであろう。バカルディと言う名のカクテルもあり「バカルディを作るにはバカルディ・ラムを使わなければならない」という判決が下ったことで一躍有名になった。

このラムは今ではプエルト・リコのブランドとして有名であるが元々はキューバのラムである。キューバ南方に位置する第2の都市サンティアゴ・デ・クーバにはバカルディ家の旧邸宅があり今ではバカルディ博物館としてスペインからの独立戦争時代の様々なものや美術品が展示されている。バカルディの墓もサンティアゴのサンタ・イフィヘニア墓地に存在する。

そんなバカルディ・ラムであるがキューバ革命後にバカルディがプエルト・リコに亡命し、いまやバカルディ・ラムはプエルト・リコのラムとなっているのである。

バカルディ・ラムが世界的に有名なラムとはいえ、キューバのラムと言ったらやはりハバナ・クラブである。フエルサ要塞の頂上に据えられていたラ・ヒラルディージャをロゴにしたこのラムはキューバ中で見かけることができる。



Whiskey Wine Vodka Tequila Sherry Beer Brandy

ラム酒で有名なカクテルと言ったらダイキリ、モヒート、キューバ・リバーだろう。

中でもモヒートは、キューバ中で昼夜を問わず愛飲されている。一年を通じて高温多湿なキューバで町歩きに疲れたときに、ふと足を止めたバーで飲むモヒートは何とも格別である。

また、キューバのレストランやバーでは、数多くのキューバン・ミュージシャンが生演奏をしており、ほろ酔い気分で聴くラテンミュージックは何とも心地よいものである。



キューバに関連する著名人の一人として、ノーベル賞作家アーネスト・ヘミングウェイが挙げられる。彼は大の酒飲みとして知られ「デス・イン・ジ・アフタヌーン(午後の死)」などのカクテルも考案している。ハバナに20年住んだヘミングウェイ行きつけのお店がハバナにも何店かある。その中でも一際有名な2店をここで紹介したい。

Whiskey Wine Vodka Tequila Sherry Beer Brandy

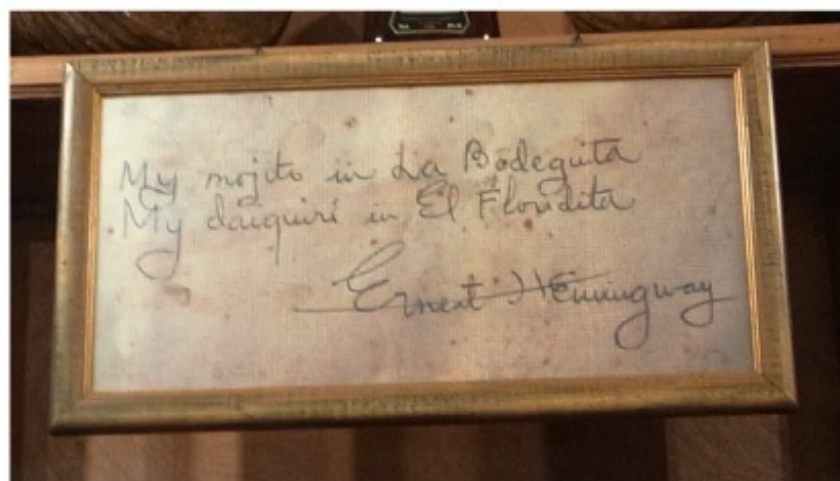
一店目がハバナ旧市街のオビスポ通りにある『エル・フロリディータ』である。ヘミングウェイは朝5時頃に起き、執筆を始め、昼頃にはお酒を飲みに出かけたと言われている。かつてヘミングウェイが座りダイキリを飲んでいた席には、ヘミングウェイの実物大の像が置かれており、多くの観光客の写真撮影スポットになっている。

店内には大きなバーカウンターがあり、その向かいにはテーブル席、奥にもテーブル席がある。せっかくこの店に来たのだから大人数でなければぜひカウンターに座りたい。

このお店の看板メニューはやはりダイキリ。そしてこの店でダイキリと言えばそれは即ちフローズン・ダイキリを指す。カウンターの中ではバーテンダーが忙しそうにブレンダーを回している。シャーベット状のフローズン・カクテルはキューバの気候に見事にマッチし一日の疲れを一気に癒してくれる。

通常のダイキリのレシピはラム、ライムジュース、シュガーシロップであるが、ヘミングウェイはラム酒をダブルにし、シュガーシロップを抜いた辛口のを好んだ。これはパパ・ヘミングウェイやパパ・ダイキリと呼ばれ、エル・フロリディータでもパパ・ダイキリという名で今も多くのお客様に愛されている。ヘミングウェイの愛したパパ・ヘミングウェイだけでなく通常の、ラム酒シングル、シュガーシロップ入りのダイキリもあるのでお酒の強さに自信がない人でも楽しめる。





もう一店が、ハバナ旧市街のエンペドラード通りにある『ラ・ボデギータ・デル・メディオ』である。ヘミングウェイはこの店ではモヒートをよく飲んだと言われており、このお店には“My mojito in La Bodeguita, My daiquiri in El Floridita”と書かれたものが掲示されている。

店は壁一面が来店者のサインで埋められており、いかに多くの人々から愛されているかが一目でわかる。世界中の著名人の写真も飾られており、中にはキューバの伝説的ミュージシャン、コンパイ・セグンドや日本の橋本元首相などの写真もある。

バースペースはあまり広くなく、多くの観光客で埋められており、みな思い思いの時間を過ごしている。

このお店の看板メニューはやはりモヒート。カウンターの中ではバーテンダーが大量のモヒートをまとめて作っている。そのラム酒の消費量たるや圧巻である。

また、このお店では葉巻も販売しており、欧米人がモヒート（もしくはビール）片手に葉巻を楽しんでいた。普段はタバコをまったく吸わない私も葉巻にチャレンジしてみた。陽気なキューバ・ミュージックを聞きながら葉巻をくゆらせつつ飲むモヒートはなんとも格別である。



話が右へ左へ飛び飛びになってしまったが結論は一つ、キューバの酒は旨い、ということである。ぜひ行って確かめてみて欲しい。

余談ではあるが、サンティアゴのカフェテリアでコーヒーを頼んだらエスプレッソにラム酒を入れて出されたことがあった。サトウキビが原料とは言えキューバではラムをこのように使うこともあるのだなあとやけに感心したことを覚えている。キューバとラムは本当に切っても切れない関係にあるのだ。

さて、今宵もキューバで買ってきたラムを舐めながら、次回の旅に思いを馳せるとしようか。



■Writer&Photographer

三矢英人

■Age

25歳

■Profile

大好きだった世界史の授業に出てくる数多の遺跡・建造物を自分の目で見るため海外へ旅立ち、その魅力にはまる。世界中の遺跡・建造物・自然・酒・飯を堪能するべくいつかは世界一周、と思いながら日々次の旅への思いを馳せるリーマンパッカー。Twitter:hideto328



旅人からの伝言

特集「スタン」

● ウズベキスタンとカラカルパクスタン

● パキスタンのおっちゃん



ウズベキスタンとカラカルパクスタン



■Writer&Photographer

大谷浩則

■Age

29歳

■Profile

猪突猛進のトイレットパッカー。現在世界2周目！

フィリピン留学からスタート。旅のPodcast配信しています！

Podcast:ウィーリーのバックパッカーラジオ 世界一周アワー

<http://tabitabi-podcast.com/sekai1/>

Blog:ウィーリー 海外放浪×地球一周×フィリピン留学 ~実況！旅人アワー~

<http://ameblo.jp/hero23/>

Twitter:@taniwheelie

シルクロード、オアシス都市、イスラム教国、旧ソ連、中央アジア……

様々なキーワードに誘われて私はウズベキスタンに降り立った。日なたでは優に40度を超える灼熱の夏の日。私はがむしゃらにウズベキスタンの街並

みを堪能した。

ウズベキスタンには4つの世界遺産がある。特に青の都サマルカンド、茶色の街ブハラ、博物館都市ヒヴァの3都市のうち、どこが印象的だったか旅人の間ではよく話題に上る。



私はヒヴァがお気に入りだ。

イチャンカラと呼ばれる内壁に囲まれた内城に広がる街並みは心を揺さぶってくれる。決して広くない敷地に所狭しと乱立するモスク、メドレセ、ミナレット。いかにも「異国に来た」という光景がこの目に「ドーンッ」と入ってくるのだ。

ミナレットから見渡すイチャンカラの風景は壮大だ（初めて見るイスラム教建築だった影響もあってか、印象が深すぎる）。また、イチャンカラ内部のホステルに泊まれば、容易に夕日・朝日を堪能できる。朝日に照らされるヒヴァの街は幻想的だった。日中は人で溢れ返っているが、誰一人歩いていない早朝は最高だ。静寂がこんなに素晴らしいとは思わなかった。静寂と朝日のマッチングでヒヴァが最高の街に感じられたのだ。

ヒヴァの街から北へ数十キロ行くと、カラカルパクスタン自治共和国というのがあるのをご存じだろうか。首都はヌクスで、人口は約120万人ほどだ。

このカラカルパクスタン共和国は遺跡好きにはたまらない。古代ホラズム

王国時代の都市遺跡（カラ）が点在しているのだ。私はこれらを見学するためにカラカルパクスタンを訪れた。

各地に点在するカラの中でも特にアヤズ・カラ遺跡は素敵だ。赤土と雑草がポツポツ生えている大地に突如現れる都市遺跡。近くにはユルタと呼ばれる遊牧民のテントもあり雰囲気も良い。このアヤズ・カラに上って大地を見下ろした時のそう快感は何とも言えない。

歴史にそこまで通じていなくても、アヤズ・カラ遺跡の凄さを体感することができた。次回があるのならば全てのカラ巡りと首都ヌクス、アラル海にも訪れてみたい。

ウズベキスタンはその土地柄のせいか複数の言語を操る人が多い。基本的にウズベク語、カザフ語、ロシア語は話せる。それに加えて英語。さらに韓国語ないし、日本語を学ぶ人も多らしい。そして、日本人と話したいのか積極的に話しかけてくる。私だけかもしれないが「チーノ（中国人）」と揶揄されず、「ジャパニーズ？」と声をかけられるのが新鮮だった。





サマルカンドのレジスタン広場で、メドレセを眺めている時に1人の青年が話しかけてきた。

「アナタハ ニホンジンデスカ？」

日本語を勉強しており、日本人とどうしても話がしたかったらしい。彼は覚えた日本語を駆使して夢中に話しかけてくる。私が英語で対応しようとする

「日本語を使ってくれ」

と言ってくる。そんな一生懸命な彼に私も応えた。結局2時間弱レジスタン広場で話をしていた。話し終えた時、とてもすがすがしい気持ちだったことを覚えている。ただ、「外国語を積極的に使いたい」という気持ちが自分には少ないなあと反省もした。

ウズベキスタンでは悪い思い出もある。郷土料理のピラウを食べて食あたりを起こしてしまった。恐らく使いまわしの油が原因だったと思われる。ブハラのラビハウズ（池）周辺の屋台で食べたのがいけなかった（元々お腹は弱い、この出来事以降屋台食は避けている）。



下痢は止まらず、一晩で30回以上もトイレに駆け込む始末。とにかく我慢ができない。初期症状で強力な下痢止めを飲んだことが悪かったのか、腹の中が渦を巻くかのようにギュルギュル唸っていた。下痢の時はとにかく「出す」ことが大切であることを学んだ。

下痢と発熱で半日以上寝込んでいたが、少し症状が良くなった昼頃にフラフラになりながら市内を観光した。しかし、お尻が気になりまともに観光できなかった。

結局この症状が原因で62キロの体重は56キロになった。効率の良いダイエットだ。

様々な思い出が生まれたウズベキスタン。旅をすると毎回「もっと長く滞在したい」と思う。ウズベキスタンもしかり。ハプニングもあったが、好奇心が尽きることはないこの国が私は大好きだ。是非皆様も一度訪れてみて欲しい。短期でも1週間あれば周ることができる。



パキスタンのおっちゃん



■Writer&Photographer
谷川和哉 (Kazuya Tanigawa)

■Age
29歳

■Profile

自分の知らない世界に触れたくて、初めてカナダに行ったのが高1。国内外問わずウロウロと。多くの街に行くよりは、一つの街でじっくりと人に触れる旅がしたい。現在は、技術者として腕みがき、翻訳ボランティアをしながら、エネルギー問題の解決方法を考える日々。誰か一緒にやりましょう。100人100旅；第1、3、5弾執筆者。100人100旅を通して東京、名古屋、京都、熊本、函館、イタリアで写真展を開催。個人的にも名古屋の旅人と共に写真展を開催する。

Twitter ; ponn_kazuya

2011年8月10～18日、お盆休みを利用してパキスタンに行ってきた。ラマザンの雰囲気を感じてみたい、と思ったからだ。今回は旅行の予定をしっかりとたてて行こう！そう考えていたのだが、面倒くさくて、結局いつものノープランで行くことになった。その上、色々なトラブルが重なり、フライト35分前に空港に到着するという始末。もちろんお金をおろす時間もなく、手持ちは、1000円

とパーツと元（全部で3万円分くらい）のみ。クレジットカードなし！という状況だった。そのため、カラチ（パキスタンで一番経済が発展してる都市、元首都）に到着したのはいいが非常に不安だった。ガイドブックすら持っていなかったのも、タイで購入したが、それを読んですらいなかったのもパキスタンの情報は皆無。僕は生きて帰れるのかな？と感じたくらいだ。

カラチには夜中に着いたのだが、事前に予約していた宿（パキстанは事前に宿泊する場所を決めて、証明書を貰わないとビザがおりなかった）が高かったため、とりあえず宿を探すところからだった。（この時、つくづく荷物を少なくしといてよかったと感じた。）22時頃、やっとの思いで宿を発見した。

ここの主人が優しかった。

「到着が遅かったからお腹減っているだろう」

と言って、ご飯とお酒（あれ？）を出してくれた。それから、今お金を持っていないこと。何で持っていないか、パキстанに何を見に来たか、人生についてなど、延々と話していた。今、パキстанは情勢が情勢だけに観光客が居なくて非常に寂しいらしい。そのまま、深夜まで話したあと、床についた。

翌朝、

「ご飯だよ！」

と、奥さんに起こされた。僕の分までご飯を用意してくれていたのだ。ラマザンの時期なので日が昇る前にご飯を食べた。本当は観光客だから、僕はやらなくてもいいのだけれど、せっくなのでラマザンに付き合わせてもらったのだ。一緒にご飯をいただいていると、宿の主人がいきなり航空券をくれた。パキстанの全てを味わって来いと、ラホール行きの片道チケットを



準備してくれていたのだ（この宿は旅行会社も兼ねていた）。半額払ったらこれをやる、とのことだった。お金ないからといって周るのを諦めるのはやめなさいと。この提案に感動しながら、僕はありがたくチケット受け取った。片道だけど、行ければなんとか帰ってこれる！ こんなチャンスを与えたおっちゃんの意志は無駄にはできないなと思ったのだ。ご飯を食べたあと、そのまま空港へ。ラホールへと向かった。

しかし、旅行で一番お金がかかるのは交通費だ。これは短期旅行なら尚更。移動手段をどうやって節約するかが問題だった。そこで僕は考えた『僕は写真を撮るのが好きだ。一眼レフカメラを持っている。そして、パキстанの人達は写真を撮られるのがすごく好きだ……！！』。そうして、とある作戦を思いついた僕は、その作戦をバスのおっちゃんに提案してみたのだ。「このカメラで写真撮ってあげる。写真撮るのは得意だ。もし気に入ったなら、無料でバスに乗せてくれないか？でも、写真は自分で現像してよ」

すると、お金ないことを悟ったのかどうか、僕にはわからないけど、この提案をバスのおっちゃんは喜んで受け入れてくれたのだ。





また、パキスタンの人たちは本当によく、ご飯をおごってくれた。ラマザンの時期にも関わらずである。確かに観光客は食べても問題ないし、子供や妊婦などは免除されている。だからなのか分からないけれど、子供を連れてくる人たちは特によく僕に食べる物をくれた。自分たちの方がお腹が空いているだろうに。フンザに向かう途中のバスでは、わざわざバスの休憩中に僕のために鶏を一匹買ってくれた人もいた。宗教的な考え方の違いもあるだろうけれど、お金のない僕には泣きそうな出来事だった。

僕はこのような人達がいたから、短い間でお金もなかったけれどパキスタンを存分に楽しんで、そして無事に日本に帰ってこれた。多分、僕のこんな旅行の仕方には批判もあるだろうと思う。でも、僕にとってはいろんな人に関われた今回の旅行は、今までの旅行と比較しても、思い出深いものとなった。これは、イスラム圏だからこその体験だろうか。

もう一度パキスタンに行きたい。そして、今度はゆっくり人と話をするだけの旅行をしたい。



今だから笑える、本当にあった

トホホな話



旅をしていると、日本ではとてもありえない事に遭遇したりする。

そして、時に泣き、怒り、落胆し、呆然とし、赤面し・・・。

そんな旅の猛者たちのトホホな話をTwitterで集めました。

★ <http://twitter.com/adilhayasaka>

トホホなインドでの話 ペナレスという街で気に入った可愛い黄色い服を買いチャイを飲みながらガンジス川沿いを気持ちよく散歩していると、いきなり気分が悪くなり吐き気、身体には蕁麻疹。僕はピーナッツアレルギーなのでピーナッツを摂取してしまう度にこの症状になる。

生まれつきだし吐けばなおるのでそんなに焦らない、あーまたやってしまったチャイにでも入っていたのかな？と思い。一緒に旅していた友人に水を2L買ってもらい全部飲んで思いっきり吐いてやりった。ただ、何故か治らない。なぜだ？と思っていたら友人が「顔！顔！」と言っています。

写メを撮って見てみると顔が腫れまくってる！一気に老けて自分じゃなくなっていました。さすがに焦りパニック！近くにいたインド人にコレはなんなんだ！と聞きまくる！でも誰も分からない。日本人がやってるゲストハウスがあるからそこで聞いてみなと言われ、行ってみた。

ゲストハウスのママさんがいて、聞いてみた。アレルギーは持ってる？と聞かれピーナッツアレルギーはもってるけど症状が違うと言うと、その服は？と。そう、朝買った可愛い黄色い服の着色料or生地によるアレルギーだったんです！すぐに脱ぎ捨て水を浴びて2時間寝たら完璧に治りました。どこに何が潜んでるかわからない。

★ http://twitter.com/ponn_kazuya

レソトでクルマにひかれて強盗に会いました。金品を取られたので帰る手段がなく、ヒッチハイクでレソトからケープタウンで帰りました。



第3回 海外起業家勉強会セミナー 潜入レポート



とにかく面白かった。

結論から言ってしまうと、講師も参加者も多彩な顔ぶれで、それぞれ秀でるものを持った人達が垣根もなく交流ができる集まりでした。

セミナーというと、無機質な会議室などで固い感じでカリカリと勉強するイメージがあったりするが、到着した会場は明るいレストランでした。

それは4月14日の土曜日15時半から始まった、「海外企業家勉強会&交流会」でした。集まったのは40名ほどの老若男女。土曜日ということもあってか、スーツを着た人は少なくカジュアルな感じでした。

この「海外企業家勉強会&交流会」とは、「単純に海外での儲けネタをもらいに来るのではなく、きちんと勉強しましょう」というのがスタンスとのこと。みなさん開放的なレストランのソファやカウンターで真剣に聞き入っていました。

それもそのはず、自分が夢だと思ってることをやってる人達が目の前にいて、さらにその日々の話しをしてくれる。評論家ではなく実践者というところがミソなんでしょう。

それぞれの講師の顔ぶれは以下のとおりです。

【外国人向けビジネスの可能性！多言語化サービスWorldjumper】 坂西優
実際にニューヨークで起業した若手起業家で、独立前から起業して4年間の奮闘をエピソードを交えて語ってくれました。海外で起業するにあたって「なるほど、いろんな障壁があるもんだなあ」と感じました。



【シンガポール、オーストラリアのビジネスビザ取得について】 大森健史
シンガポールやオーストラリアでのビジネスビザ取得の実情や法人銀行口座開設について、また海外移住について専門的立場で具体例をあげて説明してくれました。大学卒未満の学歴の起業家がリタイアされて移住を検討する例が増えているという話に興味津々でした。



【新興国でのビジネスの立ち上げ方！海外ノマド生活の実践編！】 重村俊雄
日本とウズベキスタンとタイを転々と移動しながらノマドスタイルを実践するそのライフスタイルやビジネス、ノマドスタイルの仕組みを公開してくれました。ノマドのデメリットが「孤独」と「カフェイン過剰摂取」というのが笑えました。どう自動化するかモバイル化するかが鍵のようです。

【東南アジアでのビジネス、不動産購入まで（移住準備編）】 小川泰平
元警察官で国際捜査も担当し、リタイアしてから海外のコンドミニアム事業を展開される方で、実際に不動産を購入した経緯や数字も記されてました。元警察官ということもあって、海外の治安や防犯についてもレクチャーされてて、旅行にも役立つ情報もありました。



こんな感じの濃密な時間が各1時間弱づつ（途中1回休憩あり）でしたが、どれももっと聞きたいお話ばかりでした。そんな欲求は交流会に持ち越され、見事に満足して帰れることとなっています。

今後海外で活躍したい、または外国人と取引したいなど、「海外」というキーワードで何かやりたいと思っている方にはとても刺激を受ける、勉強になる集まりでした。

こんな素敵な会、「海外企業家勉強会&交流会」を主催しているのは小田奉路（オダトモノリ）さんという青年。品のあるしっかりした感じの方で、今日集まっている人を見て「あ、なるほど」と思ったくらい。

その小田さんに理念について聞いてみました。

“国境を壊すこと”

日本という場所にとらわれず、海外へ目を向ける。

国境という概念を取り除き、世界を一つにする！

あと、この国境という意味には、国境＝限界、常識なども含めてます。

この国境という概念を壊すことで世界を自由に行き来して、よりサービスを提供し、世界中の人が一つになれる。

そのために、日本に来る外国人に対して、日本から海外へ出て行く日本人に対して、壁を取り払って行きたいというのが勉強会のきっかけでもあります。

共感しちゃいますよね。応援したくなりますよね。

この力強い意志。こんな心意気も含めて学びたい。

サイトはコチラ

<http://worldsegg.com/>

新しい情報はメルマガがオススメ

<http://archive.mag2.com/0001295311/index.html>

一本の糸で世界をつなぐチャリの旅



connection 6 「Torokbalint, Hungary >>> 3708km」

(功甫:功、儀高:儀)

イロナ:こんにちは。ようこそハンガリーへ。お待ちしておりますよ。

功:あ、イロナ先生！初めまして。お約束通り到着できて良かったです。これから1週間、よろしくお願いします。

イロナ:写真で見るよりも黒くなりましたねえ。たくましい。おつかれさまです。

儀:はははっ、スペインから日差しがとても強かったの。この通りです。

イロナ:しかし本当に自転車でポルトガルから来たのですね。信じられない。それもこんな荷物を持って！おめでとう！

功:クスヌムセーブエン(ありがとう)！

イロナ:まあ！ふふふ

儀：ハンガリーの首都ブダペシュトから20kmほど郊外の町、トルクバーリント。

功：ここには出発前から連絡を取り合い、訪問することになっていたバーリントマールトン学校があります。

儀：この学校と繋がることができたのは本当に奇蹟的だったよね！

功：そう。始まりは出発の1年前の横浜～北海道の旅。

儀：北海道への旅はいつもの2人旅とちよつと違って、おれが2日、功甫より前に出発したんだよね。大学でゼミがあったとかで。

功：うん。だからハノイ港待ち合わせ。その分僕はハイペースで向かわなければならなかった。

儀：おれは毎日150kmくらいのペース、功甫は毎日250km。アホですこのペースは。笑

功：初日は横浜から福島の大鏡を目指していました。到着したのはもう日はどつぷりと暮れた午後11時。で、向かったのは大鏡の駅。

儀：テントはおれが持ってたからね。テント無しの野宿は結構つらいでしょ。

功：丸見えだしね。笑　とりあえず終電が過ぎるのを待って、待合室で寝ようと思っていた、その時。後ろから突然声をかけられた。「泊まる場所が無いのか。ついてきなさい。私の会社に泊まっていいから」と。声をかけてきてくれたのは地元で会社を営んでいるという白川さん。もちろん、「ありがとうございます！」と即答です。(笑)

白川さんの車の後に続き会社へ到着。杯を交わしながら話していると、なんと駅へ行く前に立ち寄ったスーパーからずっと車で追いかけてきてくれていたとのこと！嬉しい。夜な夜な2人で互いのアツい思いを語り合いました。屋内で、しかも布団の上で睡眠がとれたため、疲れはなく、すっきり快復！本当に感謝。出発前一緒に写真を撮り、走り出そうとすると、「私は何も力になれないかもしれないが、もし来年ハンガリーを通過するようなら連絡をください。つながりがあるから。いってらっしゃい！」と白川さん。最後までしていただくばかりでした。ありがとう。

儀：で、横浜に帰ってきてから旅のルートを確認すると、ハンガリー、行けないことはない所にある！じゃ、行こう！ということになったんだよね。

功：そこで紹介いただいたのがハンガリー政府観光局。さらにそこからつないでいただいたのがバーリントマールトン学校のイロナ先生、ということですね。

儀：はい。さらに驚くべきことは、この学校、なんと日本語を勉強しているんだよね！！

功：そうなんです。出発前からメールで連絡を取っていたのですが、なんとそれも日本語。漢字もあり。

儀：イロナより。という最後の送り主の名前さえみなければ、誰がみても日本人同士のメール。

功：むしろ日本人よりも美しい日本語を使っているかも。

儀：出発して約1ヶ月半。英語もまだ不慣れな僕たちにとって、日本語でコミュニケーションがとれるというのはとてもありがたいし、ほっとしました。

功:さてさて、そんなイロナ先生、僕たちをこれでもか！！ってほど歓迎してくれます。到着したその場で、滞在する1週間分の僕たちの活動予定を書いたプリント(毎日、分刻みで予定がびっしり！)を手渡され、1時間後には先生方を集め、盛大な歓迎パーティー。

儀:おかげで一気にみんなの中にとけ込めたよね！ハンガリーの伝統料理をはち切れんばかりに頂きました♪



功:さらに面白かったのが、予定は未定なところ。あんなにびっしり入っていた予定も、毎日予定に関係なくどんどん入れ替わる。そしてそれを完璧にマネジメントするイロナ先生。

儀:そのおかげで、1週間という短い滞在にも関わらず、1ヶ月滞在したくらいの濃い出会い、つながりができました。

功:市長に表彰されたり、TVに出演したり、美しいハンガリーの街並をかわいい女の子(日本語勉強中の！)に案内してもらったり……



儀：おかげでちょっとしたハンガリー通です。笑

Connection of the Children

<http://coccoccoc.web.fc2.com>



田澤儀高

横浜国立大学大学院音楽教育専攻一年。ピアノと自転車旅が大好き。小さい頃からチャリで遠出するのが趣味。将来は学校の先生になって音楽の素晴らしさを子どもに伝えたい。そしてユーラシア横断の旅で感じてきたことも。



加藤功甫

横浜国立大学大学院一年休学中。保健体育科専攻。出会いに感謝し、日々邁進中！つながるって楽しい！！自転車旅/ボルダリング/生花/写真/読書/料理…

自炊派の手料理

旅に出たら現地の料理を食すに限る。でも物価の高い街での長めの滞在となると、さすがに外食ばかりはフトコロに堪える。そんな時は自炊。簡単で安く美味しい自炊派の手料理をご紹介します。

★ お手軽ローストビーフ 四人分

肉が安く手に入る国では是非とも試して欲しい料理！
バックパックに入っている余ったジップロックを使って簡単ローストビーフ！

材料

- 牛もも肉のかたまり 600g
- タマネギ 1/4個
- ジップロック 2枚

調味料

〔肉用〕

- 塩 大さじ1杯
- 胡椒 大さじ1杯
- 油 大さじ1杯
- ニンニク 一片

〔ソース用〕

- 醤油 大さじ2杯
- ニンニク 一片
- 白ワイン 大さじ2杯
- ピネガー 大さじ1杯



作り方

- ①フォークで肉を全体的に刺し、味のしみ込みを良くします。
- ②塩、胡椒、ニンニクをたっぷりすり込み、30分ほど放置。
- ③フライパンに油を入れ、肉に全面焼き色をつけます。
(フライパンは洗わなくてOK)
- ④焼いた肉をジップロック2枚重ねにして入れ、空気を抜きます。
(この時、ストローを使って吸うと簡単に空気が抜けます。)
- ⑤鍋にたっぷりのお湯を沸かし、その中にジップロックに入れたまま肉を投入。
- ⑥約30～40分弱火にしていきましょう。
(肉の厚さや大きさによって時間は変わるので30分過ぎたら確認してみましょう。)
- ⑦時間になったら取り出して、好みの厚さにカットすれば完成！！
～ソース～
- ⑧タマネギをできるだけ細かくみじん切りにしたら、③で使ったフライパンでタマネギを軽く炒めます。
- ⑨醤油、刻んだニンニク、白ワインを入れひと煮たちしたら、ビネガーを入れて完成！！

鶏肉や豚肉でも作れるので、現地で調達できる肉で作れます。
ワサビ醤油やマスタードが用意できれば、色々な味が楽しめます。
残ったら、パンに挟んだりできるので便利です。



情報提供

谷津 達観(やつ たっかん)

懐石料理で腕を磨き、中華料理店の店長を経て、夫婦で世界一周の旅に！！

現地の食材や料理を学びながら、403日間、35カ国を周る世界一周の旅に行ってきました。

「家から徒歩1年☆たっかんとじんみの2人世界一周」

<http://ameblo.jp/worldjourney2010>



人生武術と旅しかない
ちょっとかわった男
沢井ブルースの

連載エッセイ
たびあるき
たべあるき

【結婚と老後とインスタントラーメン】

先日、友人に問われたことを考えていた。「もう日本に未来は無い、どこか物価が安くて老後に夫婦揃ってのんびりと暮らせる良い国は無いか？」と。

老後に暮らす国……俺なら矢張りフィリピンだ。老後でなくても今すぐ住みたい程好きだ。あの、やたらとハイテンションで万事いいかげんでハードボイルドな所が大好きだ。アーニス(フィリピン武術)もあるし、血の気の多い若者も多い。技の実験台(デク)には事欠かない。

人は親切で女の子は可愛く、どこでも英語が通じて意志の疎通はバッチリだし、仕事してなくても何も言われなし、治安は悪いが多少の危険も鰻重

のウナギにかける山椒のように、ピリリと適度の緊張感を持たせてくれる。あとは日に何冊かマンガでもあれば武術修行並びに人生修行に最適である。

まさにパラダイスだ！

しかし……だ。それは俺だけにメリットがあるだけで、フィリピンはジイさんになった友人にとって、何のメリットも無いと気がついた。友人は武術修行しないし、いくら女の子が可愛いくとも妻帯者には意味は無いし、しかも危険や緊張感など……友人にとっては癌細胞並みの害毒以外の何物でもないであろう。

しかもフィリピンは飯があまり美味くない。基本は朝昼晩「これでもか！」と火を通した肉か魚と白米の

み。野菜類は殆ど無い。毎回毎回「栄養バランス」という概念が希薄なメニューがテーブルに並ぶ。

極めつけはマンゴーと飯を混ぜて食ったり、生温くて甘い味の白メシにコーヒーをブっかけて食ったりする。これには流石の俺も食欲が萎えた……野村沙知代のヘアヌードなみに萎えた……。

フィリピン料理の名誉の為に付け加えておくと、もちろん不味い料理ばかりでなく、ダシのバッチシ効いたスープ「シニガン」や煮込み料理である「アドボ」など美味しい料理もある。が、その反面、前述した生温甘味珈琲飯や孵化直前の有精卵のゆで卵「バロット」など、食うのを躊躇う恐ろしい料理も存在するのだ。

そして候補地を真面目に考えると、あと20年30年後に経済がどうなるかにもよるが、第一候補がタイの北部・チェンマイ、第二候補がベトナムの中部・ダラットあたりであろう。

チェンマイはタイの古都であり、北部に位置しておりバンコクに比べ涼しく過ごしやすい。そして街行く人もおっとりした印象を受ける。タイの治安の良さは言わずもがなだ。ただ好立地だけに様々な国から人が移住しており、その輩共(主にヨーロッパ系)が多少うざいと言えようざい。タイ人のニタニタ笑いも多少うざいが我慢できるレベルである。

ベトナムのダラットはまた、高地にある古都で、ベトナム国内では避暑地として知られ気温も低く非常に過ごしやすい。ただベトナムの方がタイより治安面に問題がありそうな気がする。ベトナム人も何か常にニタニタして気持ち悪い。おまけにベトナム人はしつ

こい。

異常にしつこい。物売りや客引きが30分以上背後霊のようについて来る時もあった。一体全体何なのだ……このしつこさは……。

このしつこさが有るからアメリカにも勝てたのだろうか。それはそれで良いのだがこちらに矛先は向けないで欲しい。

両都を比べた場合、治安面と雰囲気ではチェンマイが勝るが、経済面と食事の面でダラットに軍配が上がる。

ベトナムのメシは美味しい。タイ飯も非常に美味しいが、やはりあの独特な風味の料理を毎日毎日食べ続けると考えるとキツイ。ベトナムはタイほどのスパシーさは無く、かつ繊細で日本人の口に合う料理が盛りだくさんだ。何せベトナムではマズい料理を探すほうが難しい位だ。どんな小汚い店でも美味しいサンドイッチやフォーを出してくれる。

もちろん、毎日きちんと自炊すれば、フィリピンであろうがタイであろうがベトナムであろうが変わらないだろうが、どうもそのような気配は露ほども友人の奥方には無いようなので各国の食糧事情も記載した次第である。何せ友人は新婚なのに、夕食が韓国のインスタントラーメン「辛ラーメン」なのだ。しかも自分で作った……。

「結婚生活」の読みは「じんせいのはかば」なのではないか？と思わせる所業である(笑)。果たして彼等は老後に良い人生を送れるのだろうか。

俺としては、「国選ぶより、カミさん選べ」と言いたいところだが……ウップス

世界

アマ

ニ

ユ

ノ

流儀

ス

タル

私達はカナダの
北部に住む先住民
イヌイト族よ！
あら、顔がなんだか
似てるって？
同じモンゴロイド系
だからねえ。
仲良くしましょ！

わしらは、パラグアイの
首都アスンシオン郊外に
800人ほどで暮らす
先住民マカ族じゃよ。
織物や手工芸品作り
が得意なんじゃ。

遊びに来て
くれよ！

Photographer
Sayaka

100カ国訪問を目指し、
世界の秘境、民族、珈琲
を求めて女一人旅。現在
61カ国。

「WORLD JOURNEY」

<http://ameblo.jp/sayaka821/>



生まれて初めての雪山体験、一瞬《中国・四姑娘山編》

■Writer & Photographer

Chibirock

■Age

33歳

■Profile

Sigur RosとBeirut最頂のメタル好きバックパッカー。
チベット越えてインドで太って台湾の農家で大豆を
選り分けたり。最近結婚したが放浪やめる気毛頭無し。
<http://blog.chibirock.net/>

創刊号の
アジア特集
からの
スピンアウト
連載

泣く子も黙る……いや、更に泣く、
「国慶節」。中国のゴールデンウィーク。

金のある中国人が、待ってましたと
中国じゅう大移動するため、物価が高
騰し移動手段の確保もままならなくな
るカオスウィーク。

「この時期までに中国から脱出せ
よ!」と、香港人の友達より注意を受
けていたし、そうするつもりだった
が、流れに任せてたら、よりによっ
て、中国のみならず世界的に有名で、
誰か曰く「AAAA」ランクの景勝地、四
姑娘山で国慶節を乗り切ることになっ
てしまった。

長ネギを買うため変なところへ車を
止め、配達業者の車にいささかの迷惑
をかけたが、基本親切なドライバー氏
の連れてってくれた宿は、丹巴の3
倍。今日はそこかしこで羊かっさばい
て丸焼きにしてる。



この宿に至っては、宿泊客おかまい
なしで宿の入り口に丸焼き台を設置
し、部屋から丸見えなのにもかかわら
ず、別にふるまってくれたりとかは、
なかった。俊さんが

「ちょっともらってきなよ」

とか言うけど食べたきゃ自分で行き
な、なんつって、結局カップラーメン
で夕食をすました。蓋に「直麵」と、
麵が真っ直ぐであることを誇らしげに
アピールしていた「上品」という名の

カップラーメンは、縮れた普通のカップラーメンだった。そんなあからさまな嘘つくなよ。

初日、ひまだったのでゴロゴロしながらテレビでチベット語講座を楽しんでいると、オーナーが

「ちょっとだけ貸して」

とテレビのチューナーを持ってってしまった。恐らく家族親戚らと特別番組でも観るのであろう。

またチベット語講座を観たかったので、英語が少しできる中国人旅行者の助けも借りながら、2回は催促したにも関わらず、3日経っても返って来なかった。別にそこまで欲してたわけでもない分、ケンカを売るほどの気力はないこのテの問題は、余計にモヤモヤが残る。

山の入場料+乗り降り自由のバス代で160元……。これまで、メシ代が安くて7元、宿代なら20元と考えると、これは一世一代の出費である。

しかしここまできたからには、入らないわけにはいかないのでひととおり堪能してきた。

バスで終点までいくとそこはもう大雪山。



ここから遊歩道を徒歩で下るなり、バスで好きな場所で降りながら下るなり、入場ゲートまで戻るわけです。

これまで何度か死にそうになった山道も、下りなら問題無し。我々は遊歩道を5キロだか7キロだかくらいを下ってみた。

途中、チベットなゴンパ見たり、川に入ったきり凍てついているかのごとく微動だにしない牛、変な日本語の看板なんかを横目に、雪山散歩を堪能。針葉樹林帯な風景がとても新鮮。穏やかな湖がキレイだった。

中国人観光客は、遠足の小学生の如く大はしゃぎだが、高そうなアウトドアウェアで過重装備な割には歩かず常にバスで移動。我々の予想通り、漂流（ラフティング）ポイントにて過半数がバス降りた。

昼間のテンション常に最低レベルの我々の間では、ラフティングをやりたかどうかの意思確認すら生じなかった。

さて、帰りヒッチハイクした車の前に、黄色いステッカーを貼ったセダンが2台。

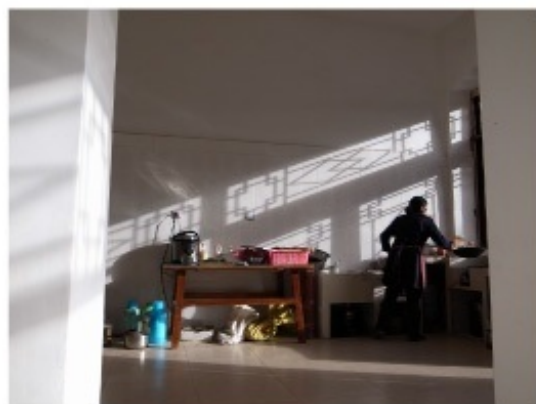
「尖閣諸島は中国のものだ、小日本に死を」

ちょうど反日デモが大流行だった時期。わかってても、目の当たりにするとちょい凹む。それでも、ほとんどの中国人は普通に生きてる普通の人で、我々が日本人だろがなんだろうが、何ら嫌な顔もせず普通に接してくれてる。どんな報道をされてるか、詳細は知らないけど、反日を声高に叫ぶのはごく一部の人であり、その一部以外の人には日本に対して敵意をむき出してなんかないし、あたしが会った大多数の人は言葉も通じないのに親切にしてくれたということを、現地から、伝えておきます。

リゾート価格のレストランだらけの中、インスタレーション云々いいそうな美術館的様相のこのお店も、修復途中だけでも今までのどこより安くて美味しい玉子炒飯を食べさせてくれました。

プラス、汚れちゃったちびろっくの眼には眩しすぎるほどの幸せな家族の営みも。眩しすぎて充血した。商売繁盛を心より祈ります。

今日も今日とて、ひまわりの種（ミント味）を貪り食い、無駄に3リットル近くある、完全にアルコールが抜けきったワインを飲みながら夜を過ごします。



都会でぬくぬく、いつも通りの生活中《中国・成都編》

朝4時極寒の中、バンに詰め込まれて五臓六腑攪拌悪路をゆくこと5、6時間。西南部きってのメトロポリス、成都に到着しました。

オープンしたてで、遊園地のアトラクションばりに行列の地下鉄！日本のそれよりも高級感のある伊藤洋貨堂（イトーヨーカドー）、競り合うように建つ伊勢丹！



チョコレートブラウニー、ホットサンド、アンデルセンのパン、本場の麻婆豆腐！食の選択肢の幅広さ！

しばらくの間、近代文明というもののから遠ざかってたから、都会に気後れしてしまうがねー。

さて、中国どころか世界中みても、ここまでの規模でここまで行き届いたサービスを受けられる安宿は100パーないと言い切っちゃう、Sim's Cozy Garden Hostelに滞在。

先日、大溪谷で短期バイトしてたヒデ君が無事帰還。合流した初日に3人で出かけた先は、そうメイド喫茶。地図を頼りに、ほんのりそれっぽいエリアをさまようヨロイ2時間。見てくれメイド喫茶通い確定な、フィギュア屋の店員、ローカルニュースに通じているであろう郵便配達人などに尋ねるも、的確な回答を得られず、疲れ果てた我々、適当な店にてお疲れ乾杯。

台北に次ぐ、「海外まで来てメイド喫茶かよツアー」はあえなく不完全燃焼に終わったが、楽しい散歩だった。

世界中の旅行者が交流するSim'sにて、カズ君、タク君、ティムとかその他もろもろ、友達がまた増えました。

人が増えたところで鍋を食いに。しばらくずっと俊さんと2人で、麵麵チャーハン麵回鍋肉麵麵なローテーションだったので久々の鍋。四川人は夕ご飯といや鍋ばっか食ってる、の？な勢いで鍋料理屋が乱立してるので、なんとなくこっちまで、人が多けりゃ鍋、みたいなことになってきている。

人が食べるものとして、色がおかしいと思う。



しかもあろうことか、バターで煮たものを胡麻油に漬けて食べる、ダブルオイル形式。うまい！ 辛いけどうまい！ とモリモリ食べたはよいが、所詮優しい味でぬくぬく育った日本人、（あたし以外）全員、翌日以降悲惨なことになりました。

この後は通りかかったゲーセンで鉄拳、宿に戻って卓球とビリヤード。

という感じで、今後数ヶ月間過ごせないであろう都会的ライフを、皆ここぞとばかりにエンジョイしまくっております。

当時の中国人の発想力と行動力に爆笑せざるをえない、超巨大な楽山大仏の街で無事ビザの延長も完了。

ツアーの人数合わせやツアー内容の選択などで、一悶着ふた悶着あったけど、この2日後にはもう天空の街チベット・ラサにいますよ！ さらば下界！



エンジョイ！ ラサ！《チベット編》



さてここにありますこの軟膏、ただの軟膏じゃございません……とかいう事を言いながら、膨らました風船がこれ塗った途端に破裂するという、そんなもの身体に塗っていいのかよ！ 的なパフォーマンスを見せた軟膏営業マン。なんだか、結構売れてた。

紆余曲折ありつつも、今まさに、チベットへ向かっている。てかなんでチベットへ向かっている？ 1人中国があんなに鬱だった香港最終日。あの日からまる1ヶ月も中国にすることになるうとは、想像もしなかった。みたいなことは、4人全員言ってる。旅とゆーか、人生ってそういう感じで流れてくもんだ。あ、今電車で移動中なので、「旅」に浸っております。なので「旅」に浸っている感たっぷりの発言をお許し下さい。

様々な物売り、中国人の奇行、カッサカサの風景を見ながら青藏列車に揺られること丸2日間。



ついに、ついにチベットのラサに着了。ラサは漢民族さまさまのお陰で、中国の地方都市ばり。アディダスにメッシュもいれば、なんか中国でやたら見るKAPPAとかコンバースとかナイキとかの店（おそらく本物の）がずらり。都会の象徴、ファーストフードのdico'sも！ そんなんで、四川省僻地のチベットタウンのほう全然チベットだったから、思いのほか「チベットキター！」の感動もなく。

でもやっぱり、生ポタラ宮はアガるよね。数十年前まで、ダライ・ラマ14世、ここに住んでたんだから。

チベタン信者たちと共に、急な坂、階段を登る。本気の信者と物見遊山の観光客が入り混じって入り口はだいぶんカオス。ポタラ宮内部は、歴代ダライ・ラマのゴージャス墓やら、ダライ・ラマの自室やら、盛りだくさんの内容だった。ようやく、チベットにきた感あった。写真撮影は一切不可。他の寺では、砂で作られた色とりどりの曼荼羅にビックリ。4

人がかりで数ヶ月。ちょいとのミスで、全部水の泡だってさ！ セブン・イヤーズ・イン・チベットでは、中国人が踏みつぶしてオジャンにした、あれです。

ジョカン寺では、全身を駆使してのストイックなリアル五体投地を見た。しかもこの寺の白い壁は、乳製品で塗られてるとか言われて、んなアホな一なんつってたら、本当に様々な乳製品がぶっかけられていた。なにこの突拍子もない発想。チベットって案外バンク。



そしてこのラサ、何が楽しいって。買い物！ アクセサリー、マニ車、マンダラのタンカ、アウトドアウェアのパチもん……男3人、皆オサレで欲しいものに妥協がなく、アクセサリーやらタンカやら、とことんこだわる熱い姿を眺めていたら、うっかり物欲を刺激され、台湾でも香港でも何も買わなかったちびろっく

もおおいにショッピングをエンジョイ。節、爆竹なりまくりの丹巴より。「この寺はベリーインポートだよ！」

と言われたところの入場料が85元と聞いて、あ、それ払うなら買い物するわ、とパスする始末。一緒にパスしたカズ君の指輪を探して、今日も今日とてほぼ1日お買い物じゃん！ でもなんで買い物ってこんなテンション上がる？ ま、たまにはいいよね！ はは！

明日からは、チベットの奥地へ移動します。

作者・情報提供者一覧

表紙写真

ワールドハッカー

元バックパッカー、現在は職業ハッカー。

ブログ『World Hacks!』にて海外旅行関連の情報を毎日発信しています。

<http://bit.ly/WorldHacks>

「Gift（与えたもの、いただいたもの）」チャーハン 本文＆写真

Taiki.

<http://worldxjourney.wordpress.com/>

「Gift（与えたもの、いただいたもの）」断れない仕掛け 本文＆写真

ZedTeppelin

<http://twitter.com/ZedTeppelin>

zedteppe.exblog.jp

「Gift（与えたもの、いただいたもの）」魔術の中で生きる ～グアテマラの世界観～ 本文＆写真

白石拓哉

あちこち巡るのも好きでしたが、ホームステイなどの長期滞在が旅のかたちになりました。

今まで感じてきたことを少しづつでも文章にしていけたらと思ってます。

E-mail: gentilsoleil0821@yahoo.co.jp

「旅で気づいた幸福論」前号スピンアウト 幸福論（後編） 本文＆写真

鈴木モト

男性 静岡県出身。高校時代、陸上でインターハイ出場。ベストタイム10秒84（100M）

美容師免許、管理美容師免許取得。

MIXIコミュニティ、「鈴木が書く世界一周旅行記が好きだ」2800人突破。

http://mixi.jp/view_community.pl?id=3502328

現在、一眼レフカメラ片手に世界を放浪中。

ブログ「地球の迷い方。～世界放浪編～」

<http://ameblo.jp/roundtheworld200130/>

私がフィリピン英語留学をする理由 本文＆写真

旅人からの伝言 「特集 スタン」 中表紙写真

旅人からの伝言 「特集 スタン」 ウズベキスタンとカラカルパクスタン 本文＆写真

大谷 浩則

猪突猛進のトイレットパッカー。現在世界2周目！フィリピン留学からスタート。

旅のPodcast配信しています！

Podcast:ウィーリーのバックパッカーラジオ 世界一周アワー

<http://tabitabi-podcast.com/sekai1/>

Blog:ウィーリー 海外放浪×地球一周×フィリピン留学 ～実況！旅人アワー～

<http://ameblo.jp/hero23/>

Twitter:@taniwheelie

Brali Biz 「旅」×「ビジネス」 本文&写真 佐谷恭

株式会社旅と平和・代表取締役。旅で体験したポジティブな面を日本に持ち帰り、日本社会を明るく楽しくするために事業展開しています。常識に支配されぬよう、自分の目で確かめたもののみを信じて行動します。大学時代に旅を始めて以来、今でいうSNSのリアル版をずっと続けています。そして思いついたのが“旅人が平和を創る”という考え方。これを自分の行動によって証明していきます。2012年のメドックマラソンと一緒に走る人を募集しています。興味ある方はぜひメッセージをください。

近況を伝えるメルマガを発行しています。

<http://archive.mag2.com/0001113585/index.html>

<http://paxihouse.com/tokyo/>

<http://pax.coworking.jp/>

Chibirockの旅はくせもの 本文&写真

アジア漂流日記 本文&写真

Chibirock

Sigur RosとBeirut髯員のメタル好きバックパッカー。チベット越えてインドで太って台湾の農家で大豆を選り分けたり。最近結婚したが放浪やめる気毛頭無し。

<http://blog.chibirock.net/>

HANGOVER in the WORLD 「キューバの酒」 本文&写真

三矢英人

大好きだった世界史の授業に出てくる数多の遺跡・建造物を自分の目で見るため海外へ旅立ち、その魅力にはまる。世界中の遺跡・建造物・自然・酒・飯を堪能するべくいつかは世界一周、と思いながら日々次の旅への思いを馳せるリーマンパッカー。Twitter:hideto328

<http://twitter.com/hideto328>

旅人からの伝言 「特集 スタン」パキスタンのおっちゃん 本文&写真

谷川和哉 (Kazuya Tanigawa)

自分の知らない世界に触れたくて、初めてカナダに行ったのが高1。国内外問わずウロウロと。多くの街に行くよりは、一つの街でじっくりと人に触れる旅がしたい。現在は、技術者として腕みがき、翻訳ボランティアをしながら、エネルギー問題の解決方法を考える日々。誰か一緒にやりましょう。100人100旅；第1、3、5弾執筆者。100人100旅を通して東京、名古屋、京都、熊本、函館、イタリアで写真展を開催。個人的にも名古屋の旅人と共に写真展を開催する。

Twitter ; ponn_kazuya

旅人からの伝言 「特集 スタン」 中表紙写真

一本の糸で世界をつなぐチャリの旅 本文&写真

Connection of the Children

<http://coccoccoc.web.fc2.com>

田澤儀高

横浜国立大学大学院音楽教育専攻一年。ピアノと自転車旅が大好き。小さい頃からチャリで遠出するのが趣味。将来は学校の先生になって音楽の素晴らしさを子どもに伝えたい。そしてユーラシア横断の旅で感じてきたことも。

加藤功甫

横浜国立大学大学院一年休学中。保健体育科専攻。出会いに感謝し、日々邁進中！つながるって楽しい！！自転車旅/ボルダリング/生花/写真/読書/料理...

自炊派の手料理 本文&写真

谷津 達観(やつ たっかん)

料理一筋！懐石料理で腕を磨き、中華料理店の店長を経て、世界一周の旅に！

現在、夫婦で旅に出て9ヶ月。一年の予定で現地の食材や料理を学びながら旅をしています。食べるのも、作るのも大好き！

「家から徒歩1年☆たっかんとじんみ2人世界一周」

<http://ameblo.jp/worldjourney2010/>

エッセイたびたべ 本文&写真

沢井ブルース

人生武術と旅しかないちょっとかわった男です。

世界マイノリティ流儀

Sayaka

100カ国訪問を目指し、世界の秘境、民族、珈琲を求めて女一人旅。現在61カ国。 「WORLD JOURNEY」

<http://ameblo.jp/sayaka821/>

協力

向井通浩

JAPAN BACKPACKERS LINK 代表・運営管理者。「ハニートラップ研究所」所長。タイマッサー
ジ依存症。ホワイト餃子。

<http://backpacker-link.com>

<http://www.mag2.com/m/0001521550.html>

小田奉路

海外起業家's EGG主宰

<http://worldsegg.com/>

<http://archive.mag2.com/0001295311/index.html>

広告

カオサン東京ゲストハウス

<http://www.khaosan-tokyo.com/ja/>

Maison D'hote Amande chez noriko

<http://amandecheznoriko.web.fc2.com/>

編集後記

前号ではとうとう70ページを超え、負担がでかくなってきてしまったので、今回はちょっと絞りました。

前号から始まったBrali Bizは力が入ったコーナーに仕上がったつもりです。

次号はいよいよ1周年記念。どんな企画にしよう。

1周年ではサイトも立ち上げる予定です。

そして、Brali Bizからセミナーを始める企画も準備中です。

「旅、インバウンド、アウトバウンド、海外」等のキーワードで独立や週末起業や副業など検討の方
向けに、その方面の識者や経験者などを講師に迎え、セミナーを企画しています。

皆様のご感想などもお待ちしております。ちょっとしたメモ程度でもかまいませんので、感じたこと気づいたことなどお送りください。

bralimagazine@gmail.com

次号予告（２０１２年６月２５日発行予定）

- Brali Biz 「旅」×「ビジネス」
- 旅で使えるデジタルアプリ
- HANGOVER in the WORLD
- Chibirockの旅はくせもの
- 旅人からの伝言「特集 コーカサス」
- トホホな話
- 一本の糸で世界をつなぐチャリの旅
- 自炊派の手料理
- エッセイたびたべ
- アジア漂流日記
- 旅先の変な日本語
- 台湾人のみなさん、たくさんの義援金ありがとう！

記事と情報および写真の募集要項

次回のBraliの発行予定は6月25日です。一周年記念号になります。

下記の記事や情報をお気軽にお寄せください。ご応募いただきました中から厳選させていただきます。

★記事および情報

→1500字から2000字程度

■旅で使えるデジタルアプリ →旅で役に立ったアプリを教えてください。

■HANGOVER in the WORLD →旅先での酒や酒場にまつわるショートコラムをお待ちしてます。

■旅人からの伝言 特集コーカサス

→1500字から2000字程度

■変な日本語→海外でよく目にする「変な日本語」。写真とどこで撮影したかを教えてください。

■台湾人のみなさん、たくさんの義援金ありがとう！

→Twitterで台湾のみなさんへの感謝の気持ちを集めています。

★写真

■Brali表紙用写真

コーカサス地方で撮影された写真を募集します。

記事投稿および投稿に関するご質問はメールにてお願いします。

bralimagazine@gmail.com

投稿フォーム

<http://bralimagazine.blogspot.jp/2011/11/blog-post.html>

Brali

●公式ブログ

<http://bralimagazine.blogspot.com/>

●Facebookページ

<http://www.facebook.com/Bralimagazine>

●mixiページ

<http://p.mixi.jp/brali>

●twitter

<http://twitter.com/2moratorium>

編集：くりはらのぶゆき

発行：くりはらのぶゆき